

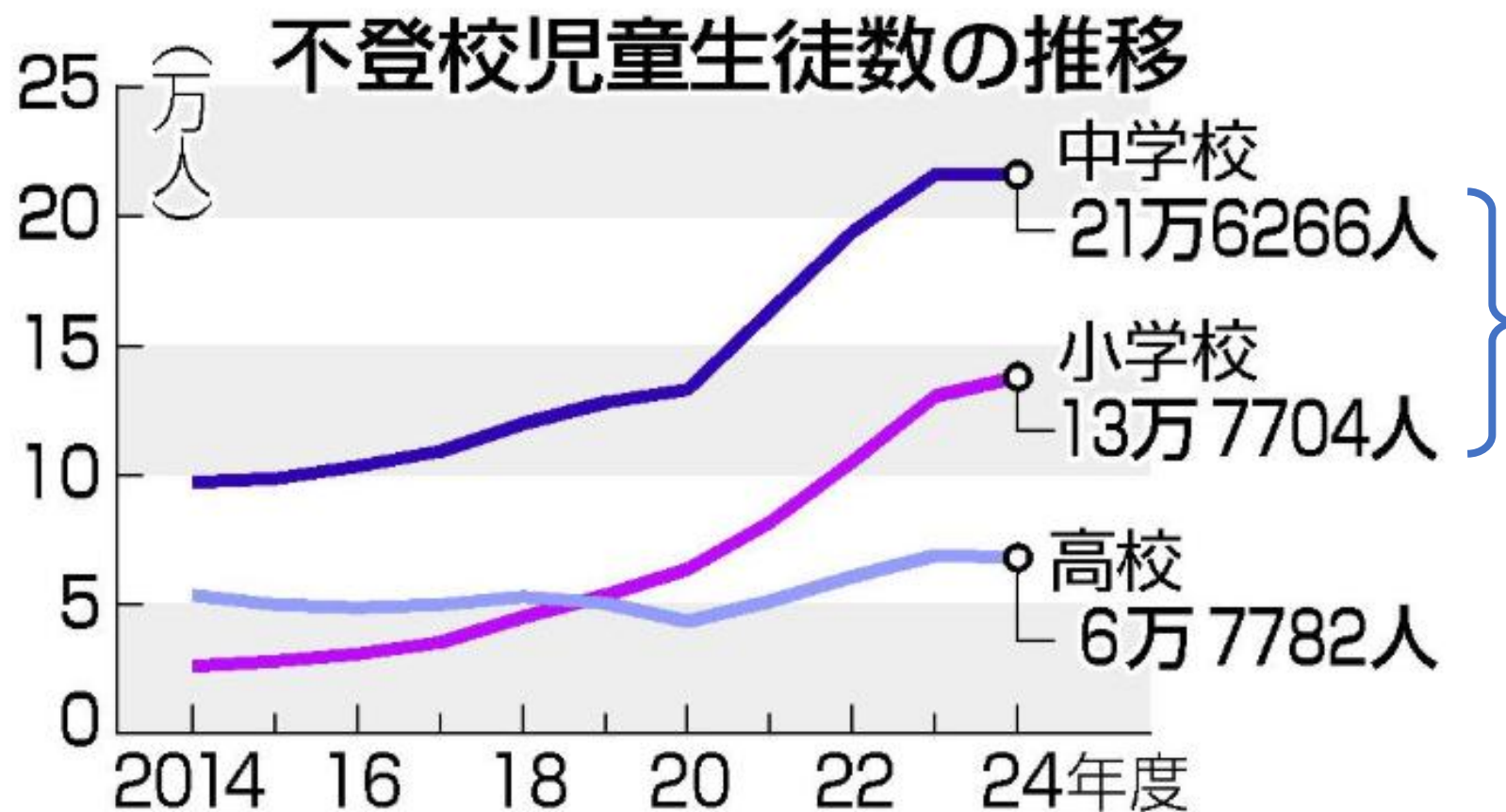
令和7年度

児童生徒の不登校対策に関する研究

盛岡市教育研究所

専門研究員 阿部 真一

全国の不登校児童生徒数の推移



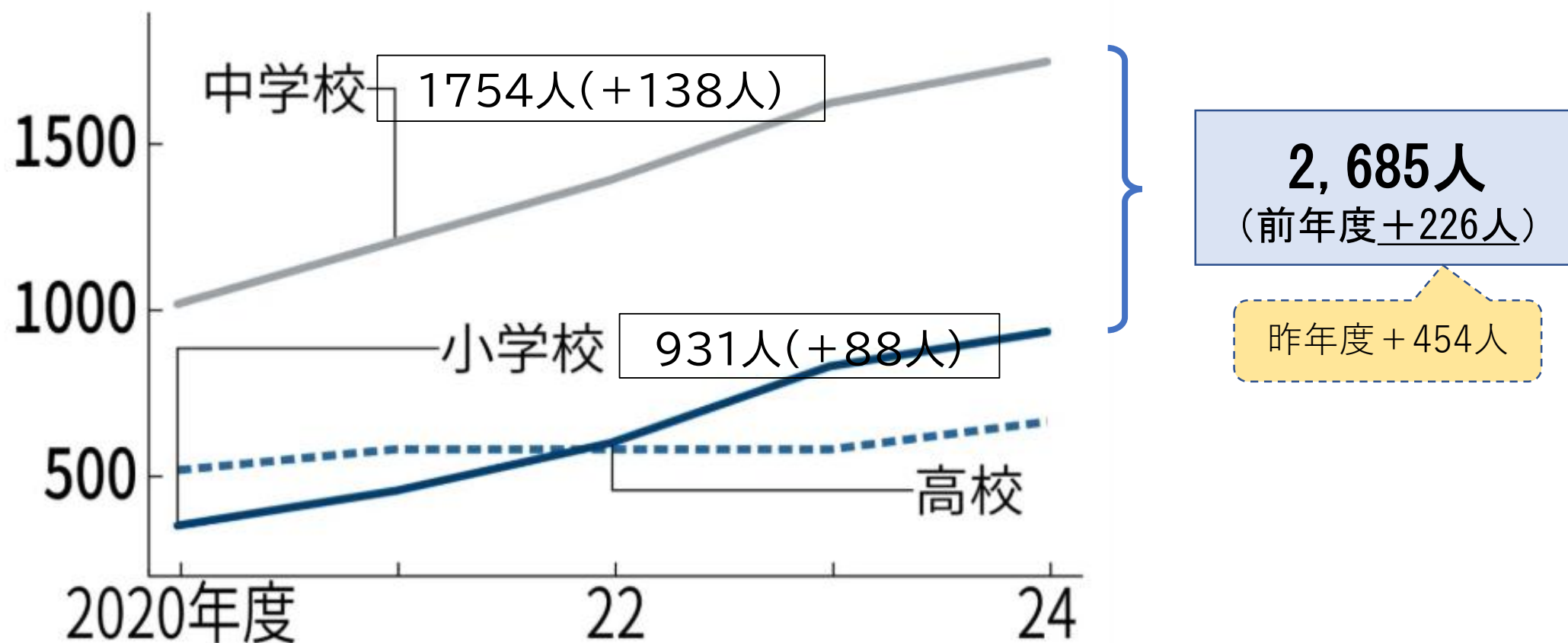
文部科学省「24年度問題行動・不登校調査」より

35万3970人
(前年度+7488人)

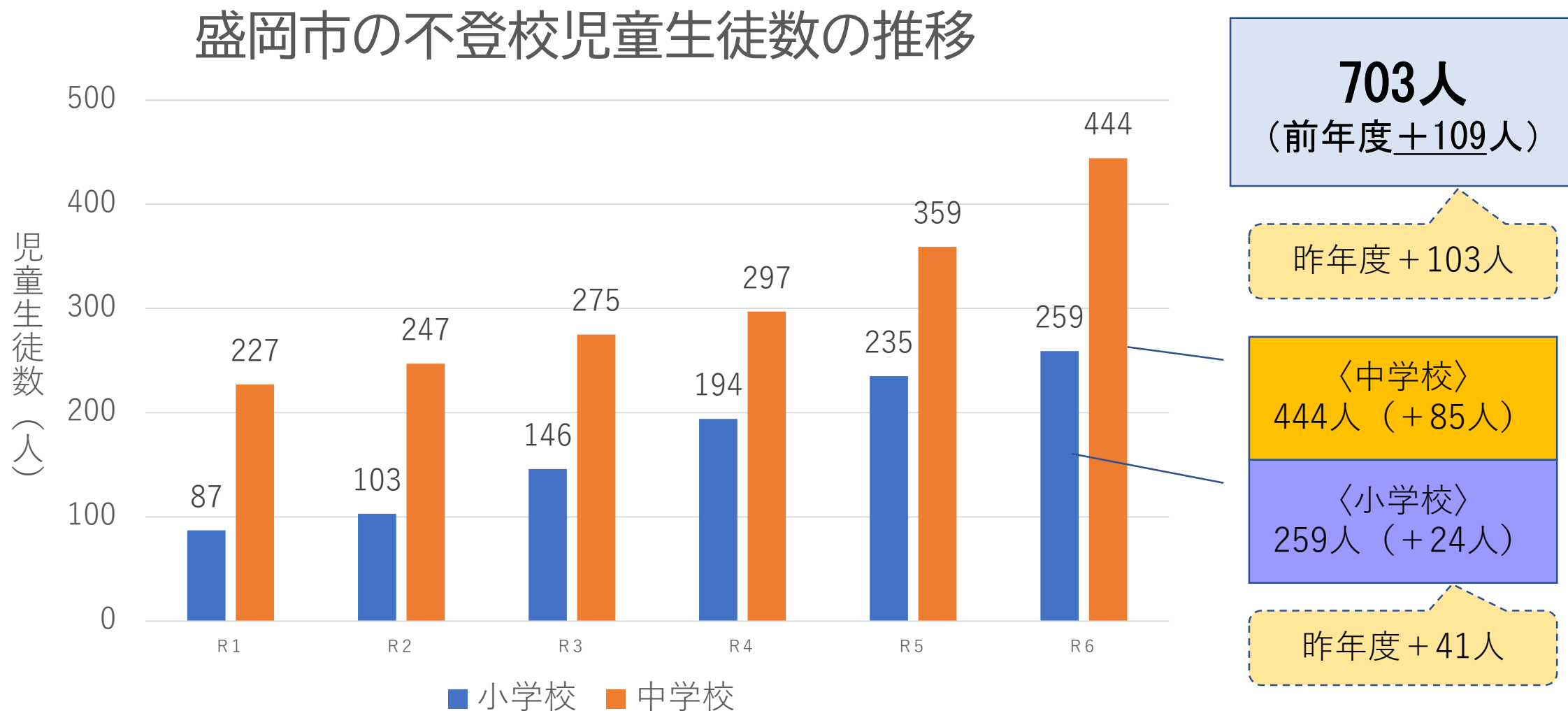
昨年度+4万7434人

岩手県の不登校児童生徒数の推移

人 県内の不登校児童生徒数



盛岡市の不登校児童生徒数の推移



盛岡市の学校教育



学校風土の「見える化」とは

◎学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。

(令和5年3月「COCOLOプラン」文部科学省)

- 学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善
- いじめ等の問題行動に対しては毅然とした対応を徹底
- 児童生徒が主体的に参加した校則等の見直しの推進
- 快適で温かみのある学校としての環境整備
- 障害や国籍言語等の違いに 関わらず、色々な個性や意見を認め合う共生社会を学ぶ場に

「校内教育支援センター」とは

〈文部科学省〉

- 学校に行けるけれど自分のクラスに入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる、学校内の空き教室等を活用した部屋のことです。児童生徒のペースに合わせて相談に乗ってくれたり学習のサポートをしてくれたりします。
(「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策 COCOLOプラン」 P12 『関連の用語』より)

〈盛岡市教育委員会〉

- 不登校児童生徒等の支援のため、学習・生活環境や支援体制が整っており、常時又は適宜開室している「教室以外の場所」、又は、保健室等、本来は別の用途がある場所において、教職員等から受容・共感を中心とした支援が受けられる「ひと休みの場所」として、校内において共通認識されている部屋を「校内教育支援センター」と捉えます。

課題予防的生徒指導



図2 生徒指導の重層的支援構造

目的	取組の対象	主たる取組	2つの「チーム学校」
A 新規数を抑制する	①前年度不登校ではなかった児童生徒全員	集団指導 (ガイダンス)	未然防止 (発達支持的生徒指導) (課題未然防止教育) 教員の同僚性をいかした「チーム学校」
	②上記のうち兆しが見えた児童生徒	個別支援 (カウンセリング)	初期対応
B 継続数を減少させる	③前年度不登校であった児童生徒	個別支援 (自立支援)	教員に加え、 スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー 適応指導教室関係者等 多職種による「チーム学校」 事後対応

令和7年度の研究内容

盛岡市の学校教育

「誰一人取り残さない教育の推進」

重点

学校風土の「見える化」
「校内教育支援センター」の充実

文科省の生徒指導提要

「課題解決的生徒指導」

- 「課題予防的生徒指導」
- 「発達支持的生徒指導」

令和7年度の研究内容

1. 市内小・中学校における「不登校予防の取組」について
2. 市内小・中学校における「校内教育支援センターの現状」について
3. 年間150日以上欠席の児童生徒への効果的支援の事例について

学校アンケート調査
(6月調査：悉皆)

学校訪問調査
(アウトリーチ型支援)

中学生アンケート調査
(10月調査：抽出)

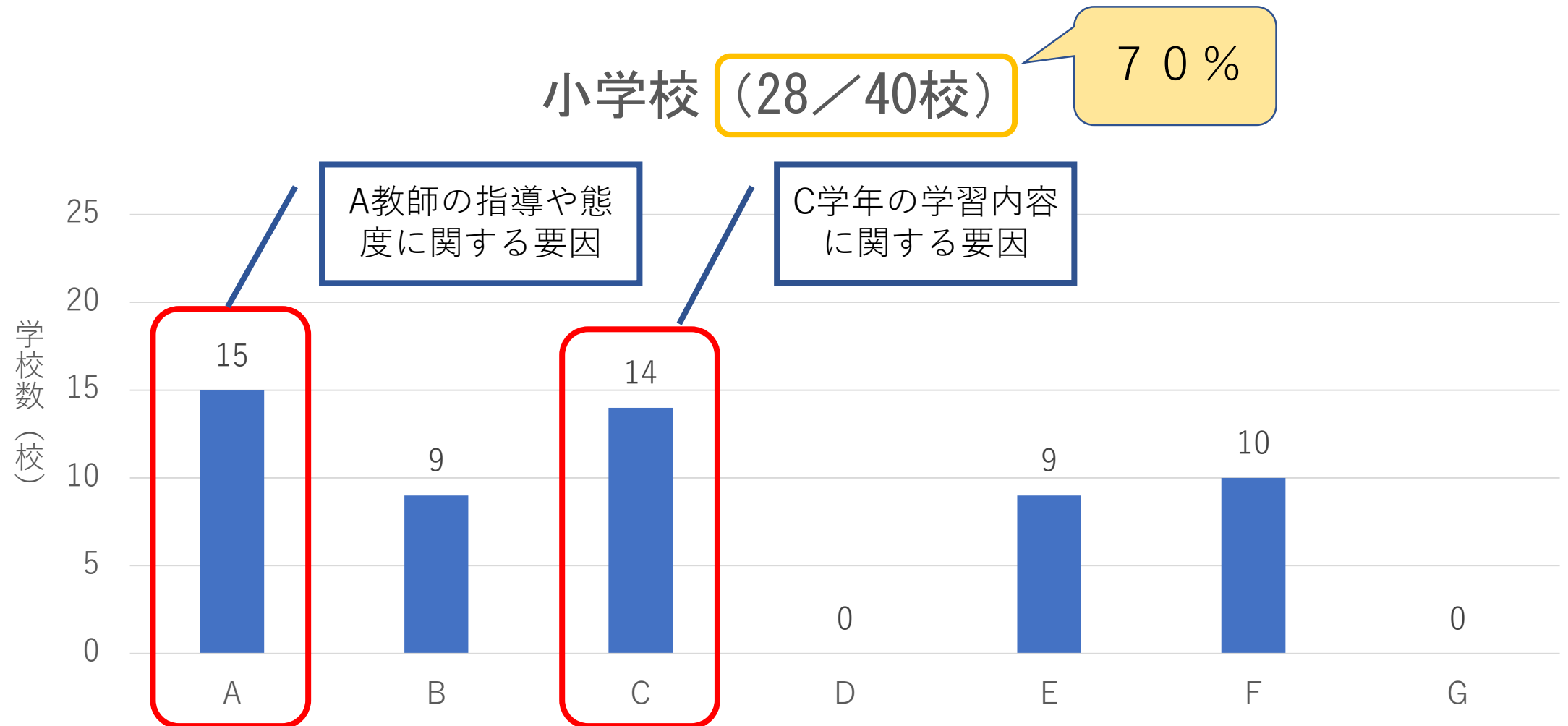
学校アンケート調査の結果

- 内容…①「不登校予防の取組」について
②「校内教育支援センターの現状」について
③「150日以上欠席の児童生徒への効果的な支援」について
- 対象…市内小・中学校（小学校40校、中学校22校）
- 時期…6月～7月
- 方法…質問紙

不登校増加に係る学校要因

- A. 「教員の指導や態度」に関する要因
- B. 「授業の進め方」に関する要因
- C. 「学年の学習内容」に関する要因
- D. 「授業時間や時数」に関する要因
- E. 「学校生活」に関する要因
- F. 「学校行事」に関する要因
- G. 「部活動等」に関する要因

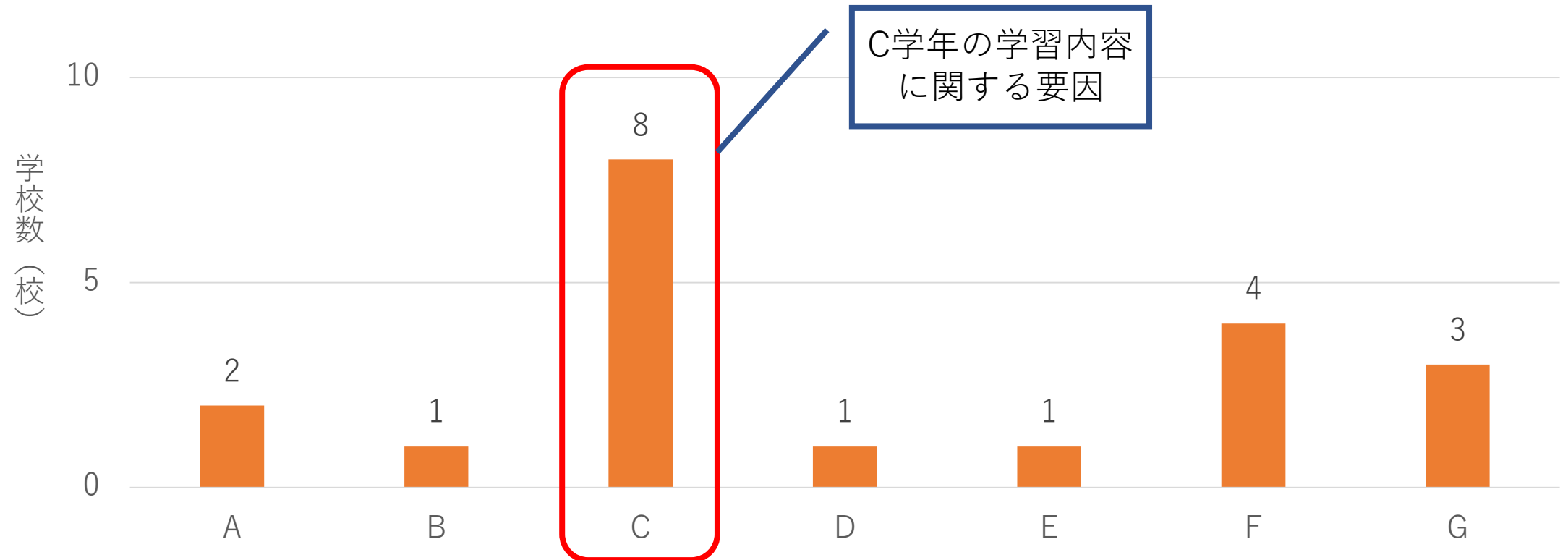
不登校の学校要因（小学校）



不登校の学校要因（中学校）

中学校 (12／22校)

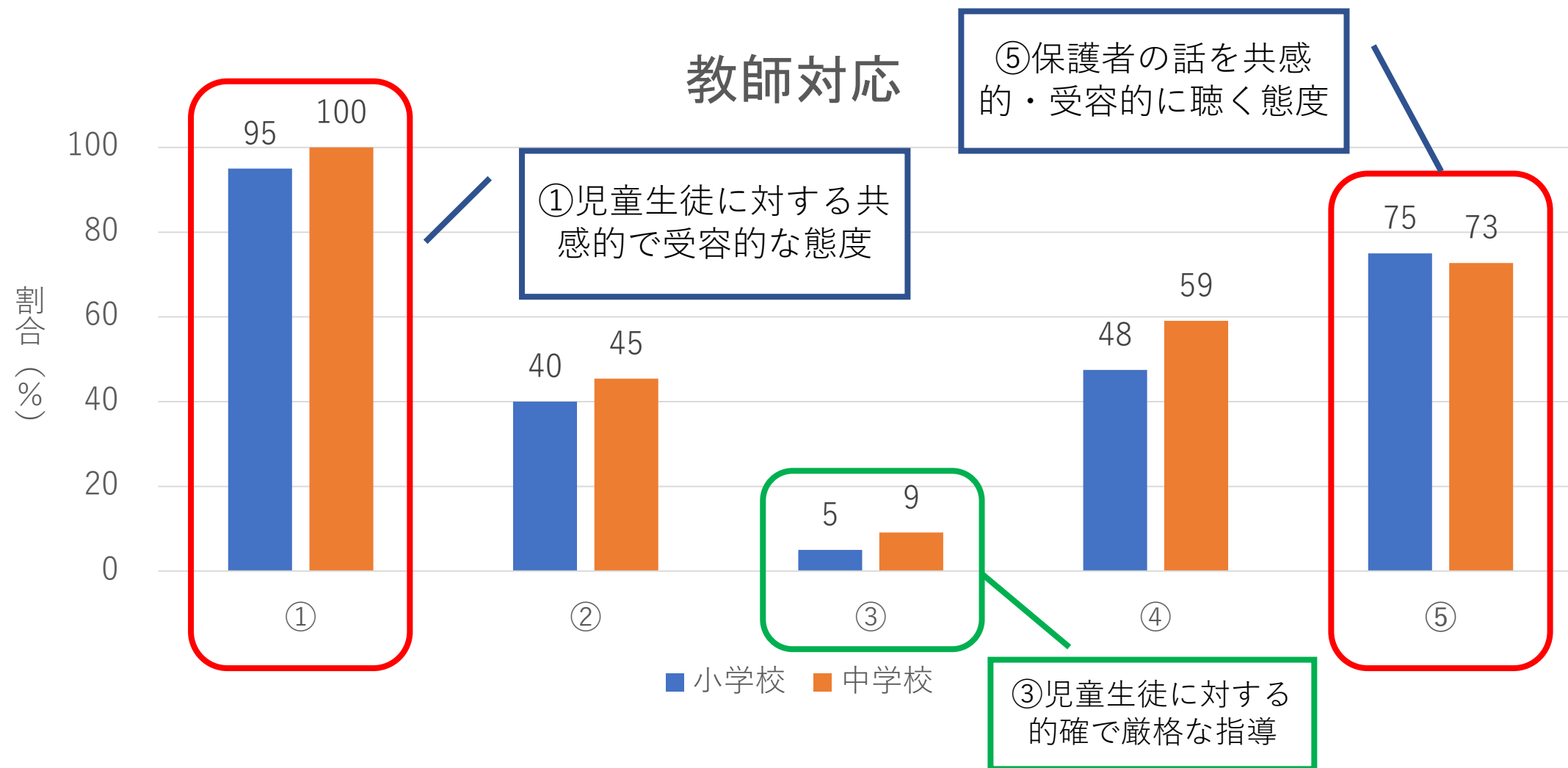
55%



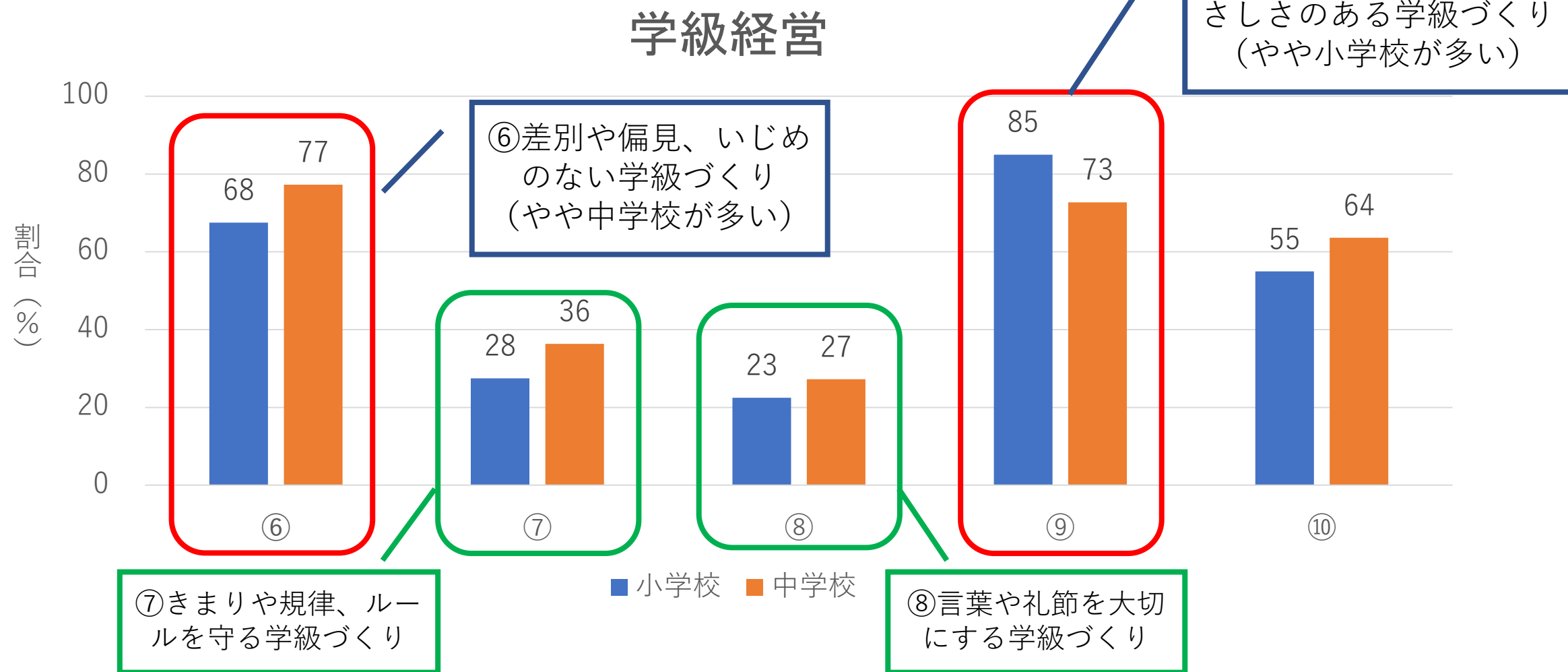
学校の不登校予防の取組

- (1) 教師対応 (指導、態度、接し方、感じ取り方等)
- (2) 学級経営 (差別・いじめ、きまり・ルール、言葉・礼節、やさしさ、個性等)
- (3) 授業改善 (分かる・できる、個別最適・協働的、ICT活用、主体性、学習規律等)
- (4) 学校運営 (いじめ防止、不登校対策方針、校内教育支援センター、アンケート、教員研修等)
- (5) 組織体制 (情報共有、ケース会議、役割分担、保健室連携、SC・SSW等)
- (6) 家庭連携 (信頼関係、電話・訪問、教育相談、関係機関、家庭ルール等)

不登校予防の取組(1)「教師対応」



不登校予防の取組(2)「学級経営」



不登校予防の取組(3)「授業改善」

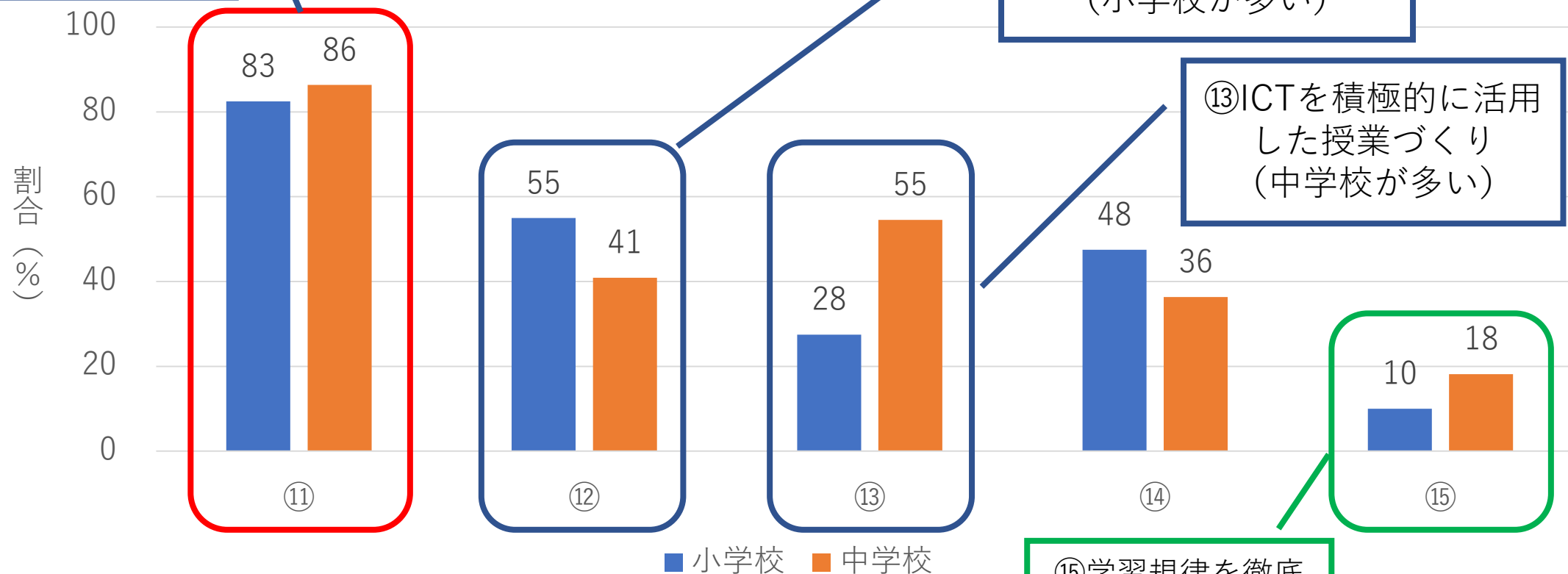
⑪分かる、できる、
楽しい授業づくり

授業改善

⑫個別最適で協働的な
学びのある授業づくり
(小学校が多い)

⑬ICTを積極的に活用
した授業づくり
(中学校が多い)

⑮学習規律を徹底
した授業づくり

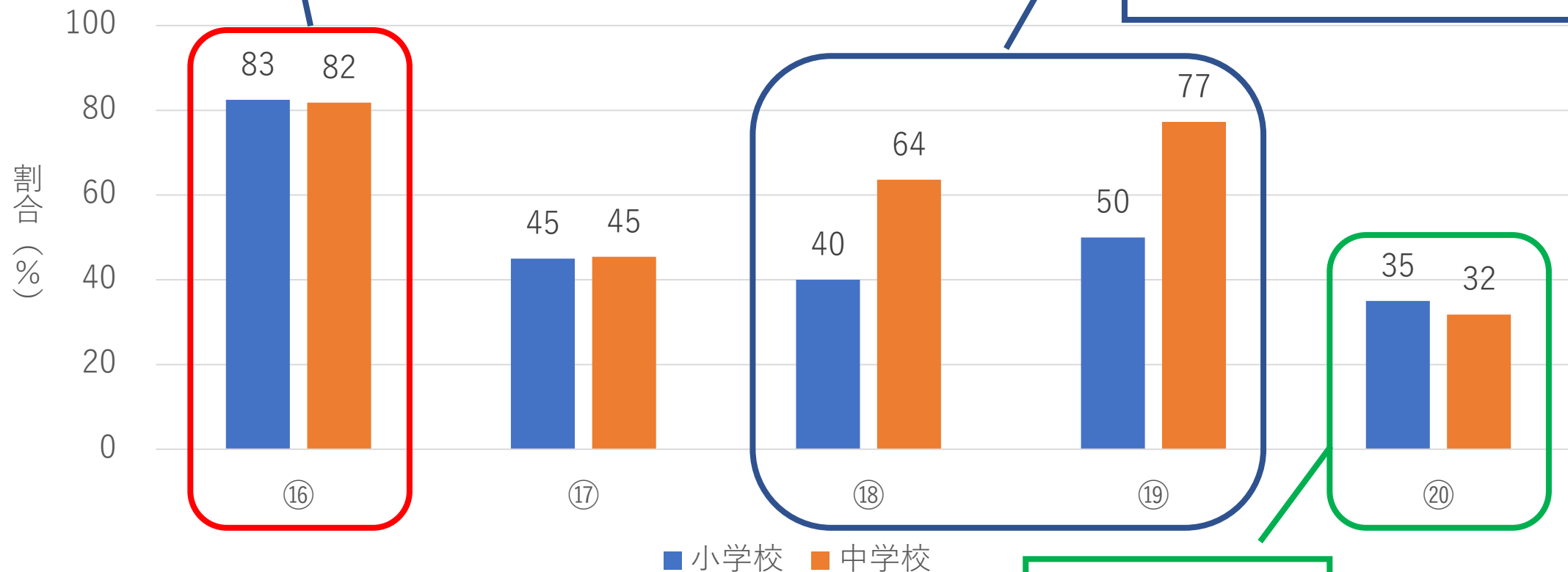


不登校予防の取組(4)「学校運営」

①⑥いじめ防止の徹底

学校運営

①⑧校内教育支援センターの運営
①⑨定期的なアンケートの実施
(中学校が多い)



①⑩教員研修の充実

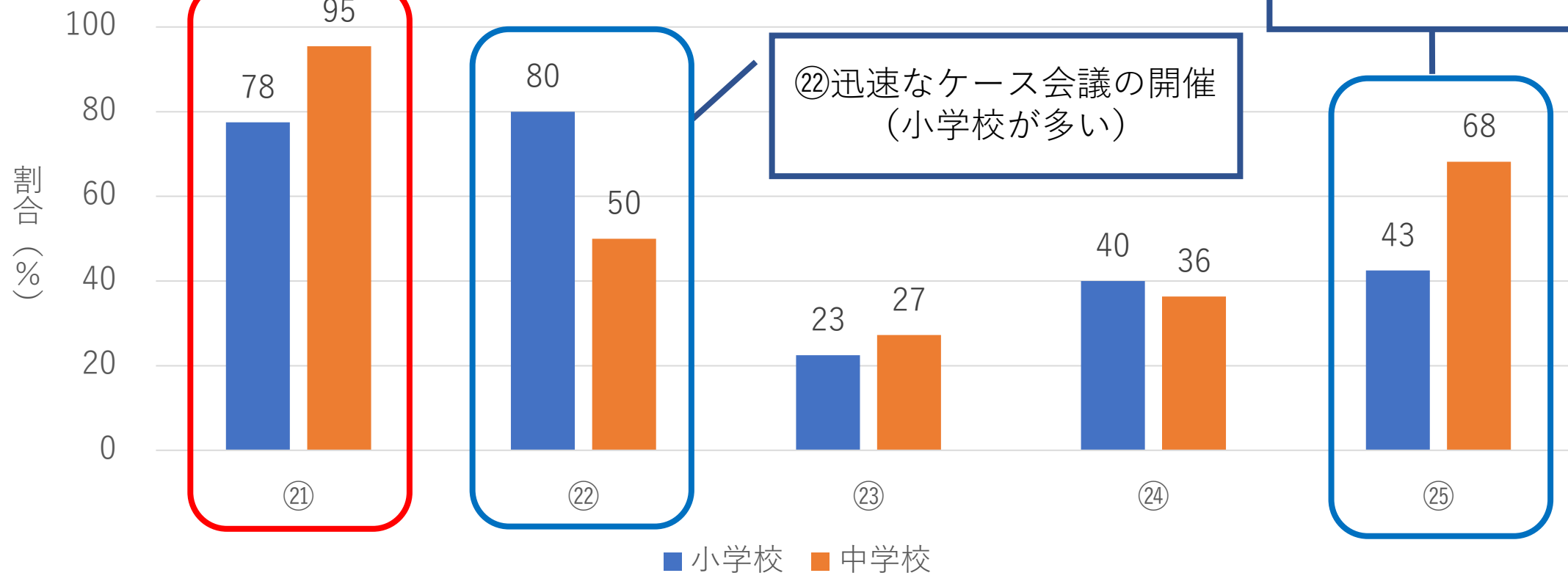
不登校予防の取組(5)「組織体制」

②①会議等による定期的な情報共有

組織体制

②⑤SCやSSWとの相談体制の整備(中学校が多い)

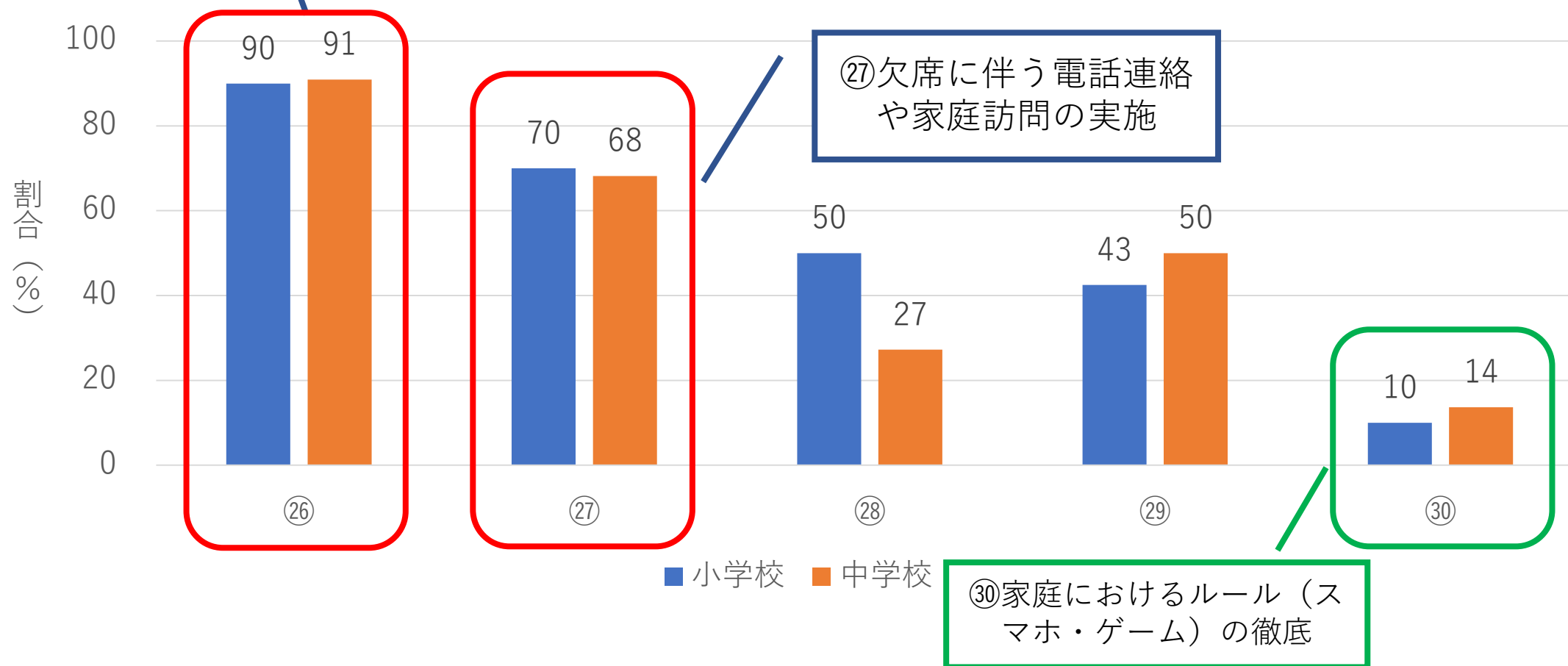
②②迅速なケース会議の開催(小学校が多い)



不登校予防の取組(6)「家庭連携」

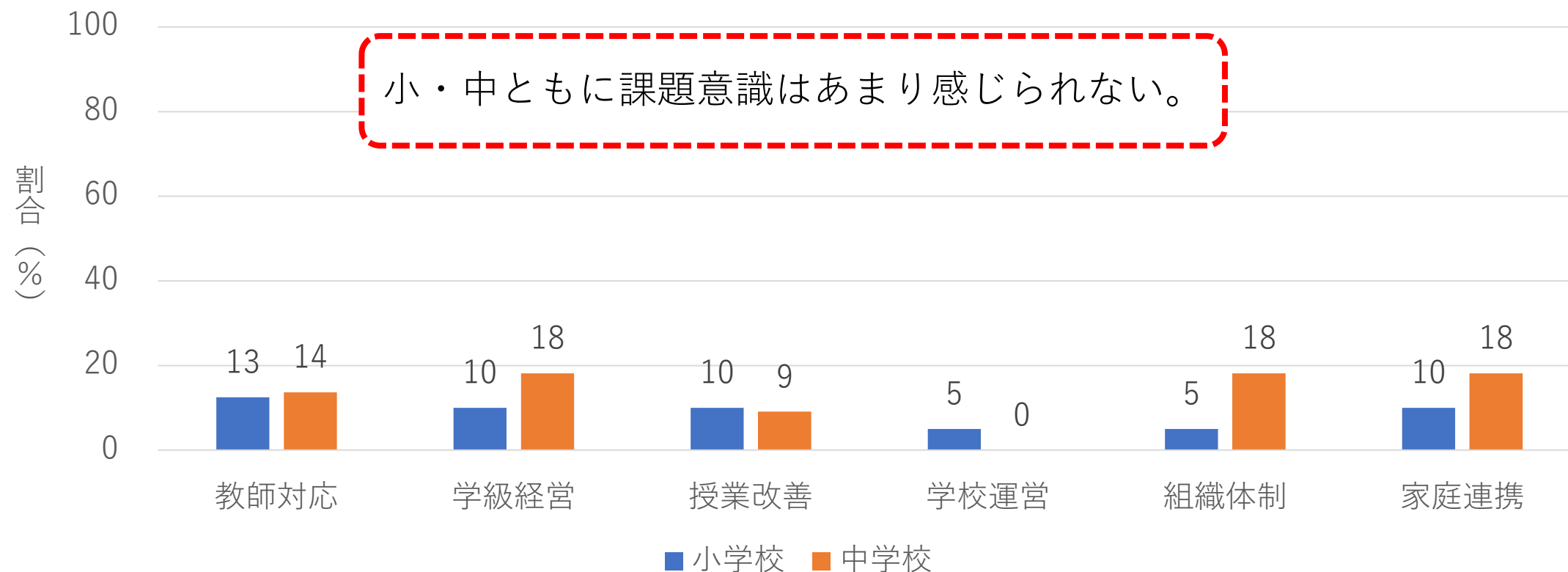
②⑥日常的な保護者との信頼関係の構築

家庭連携



不登校予防の課題

課 題



不登校予防の学校体制の工夫

(1) 学年担任制（チーム担任制、複数担任制）

- 学年（学団）の複数の教員でチームを作り、一定期間ずつ交代しながら異なる学級を担任する。

(2) 教科担任制（小学校のみ）

- 担任外の専科教員や担任同士の交換授業によって、教科を分担して指導する。

(3) 単年度型学級編成

- 通常、小学校では2年ごとに中学校では2年時に行われていた学級編成を毎年実施する。

(4) 授業時間の短縮

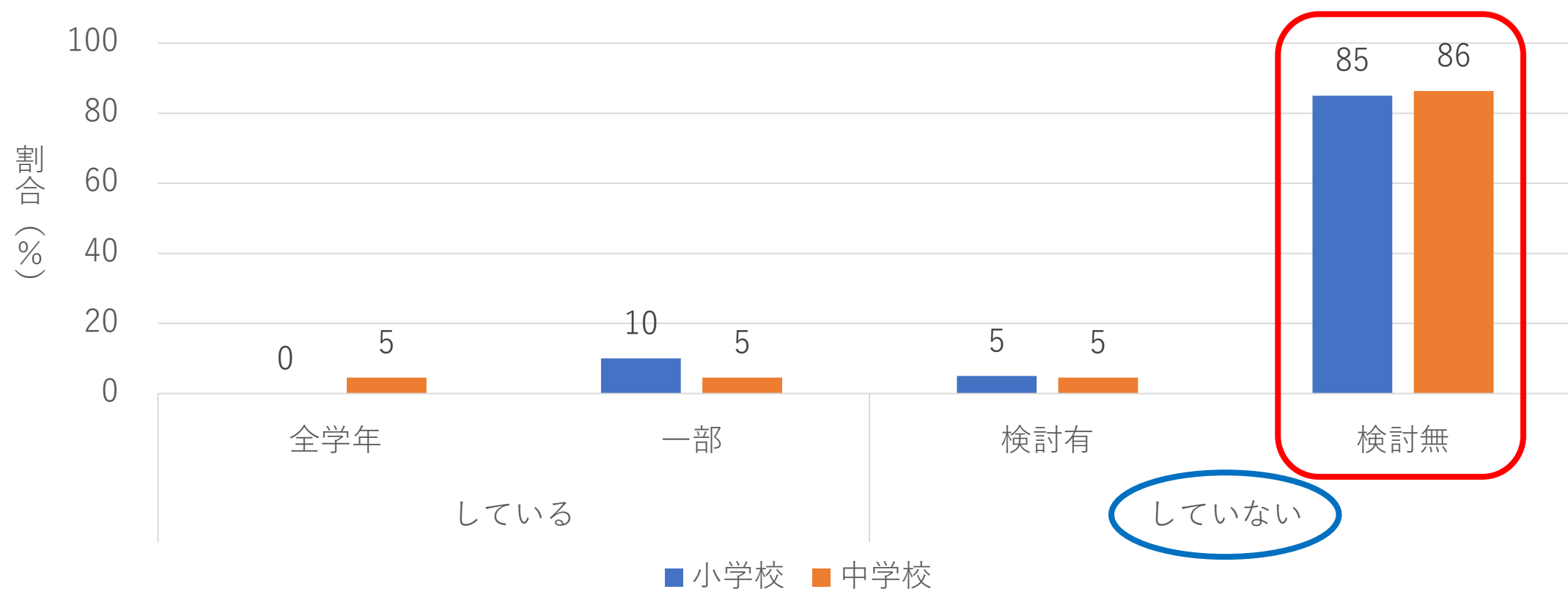
- 通常、小学校45分、中学校50分の授業時間を、40分と45分に短縮して行う。

(5) 週授業時数の削減

- 週授業時数を削減して、意図的にゆとりのある曜日をつくる。

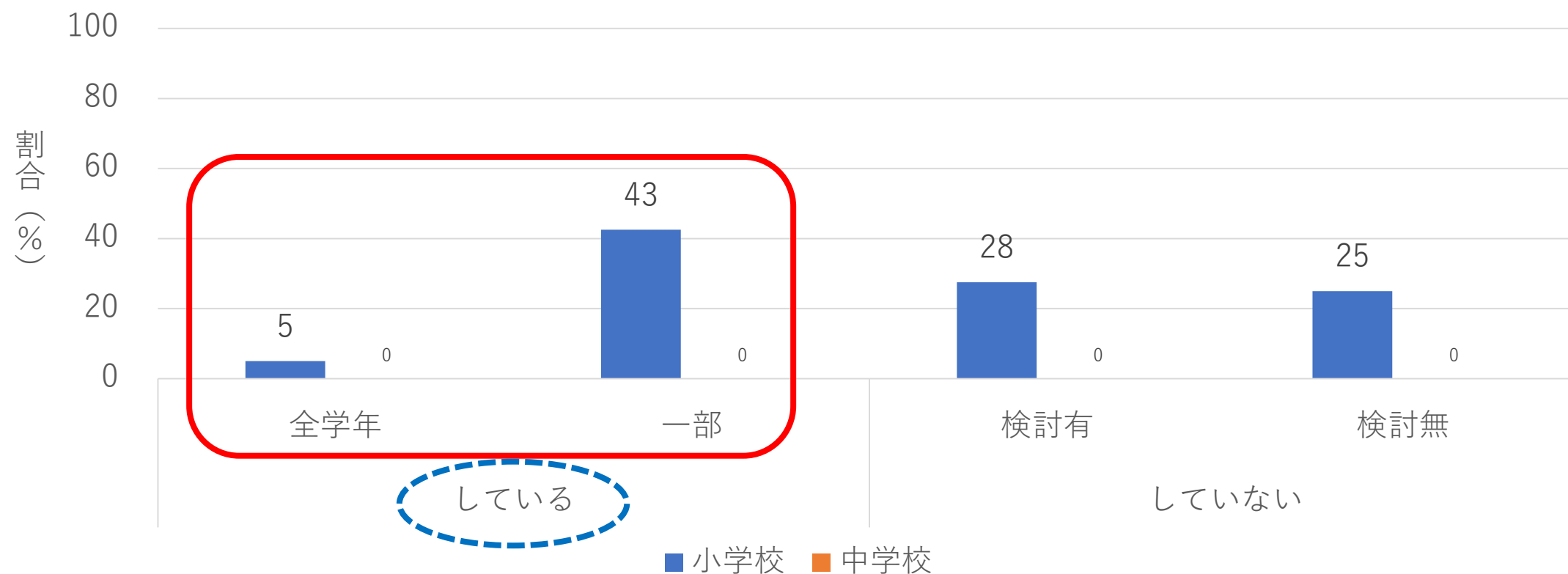
学校体制の工夫(1)「学年担任制」

学年（チーム）担任制

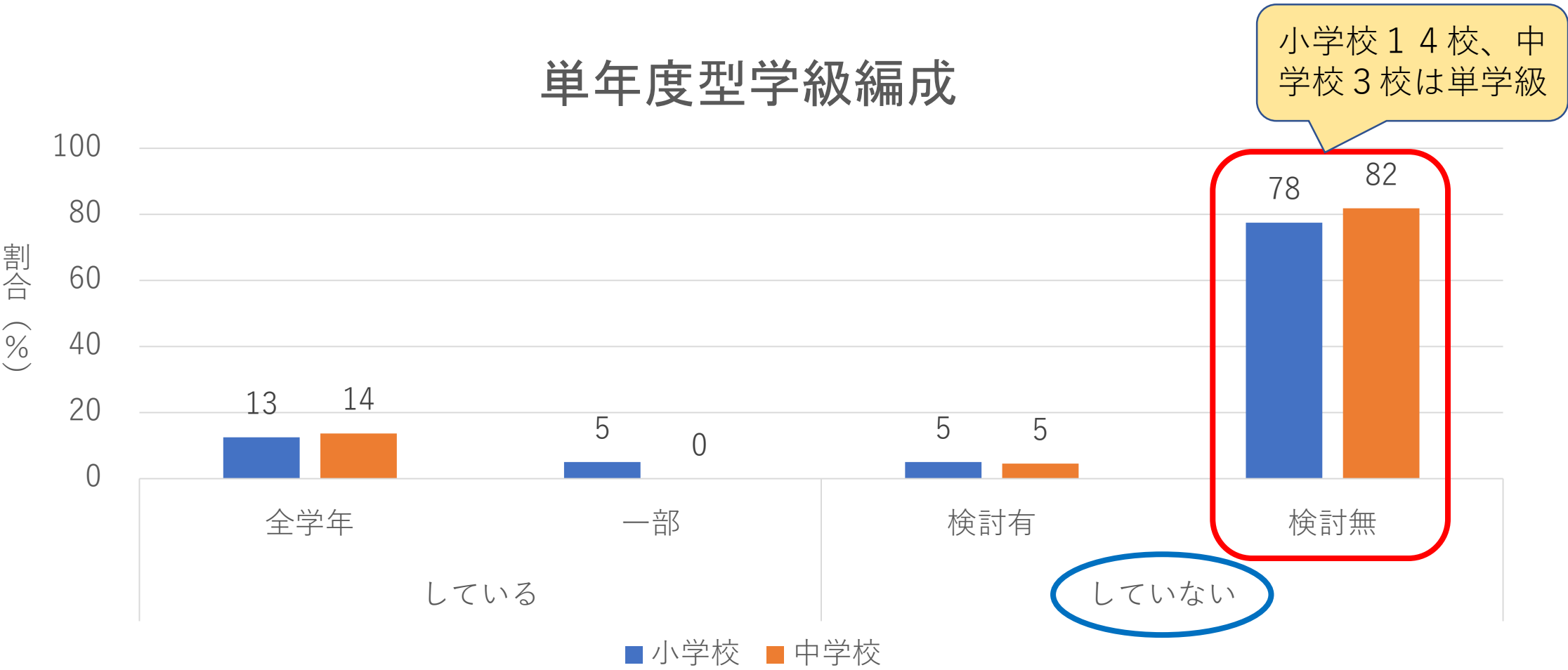


学校体制の工夫(2)「教科担任制」

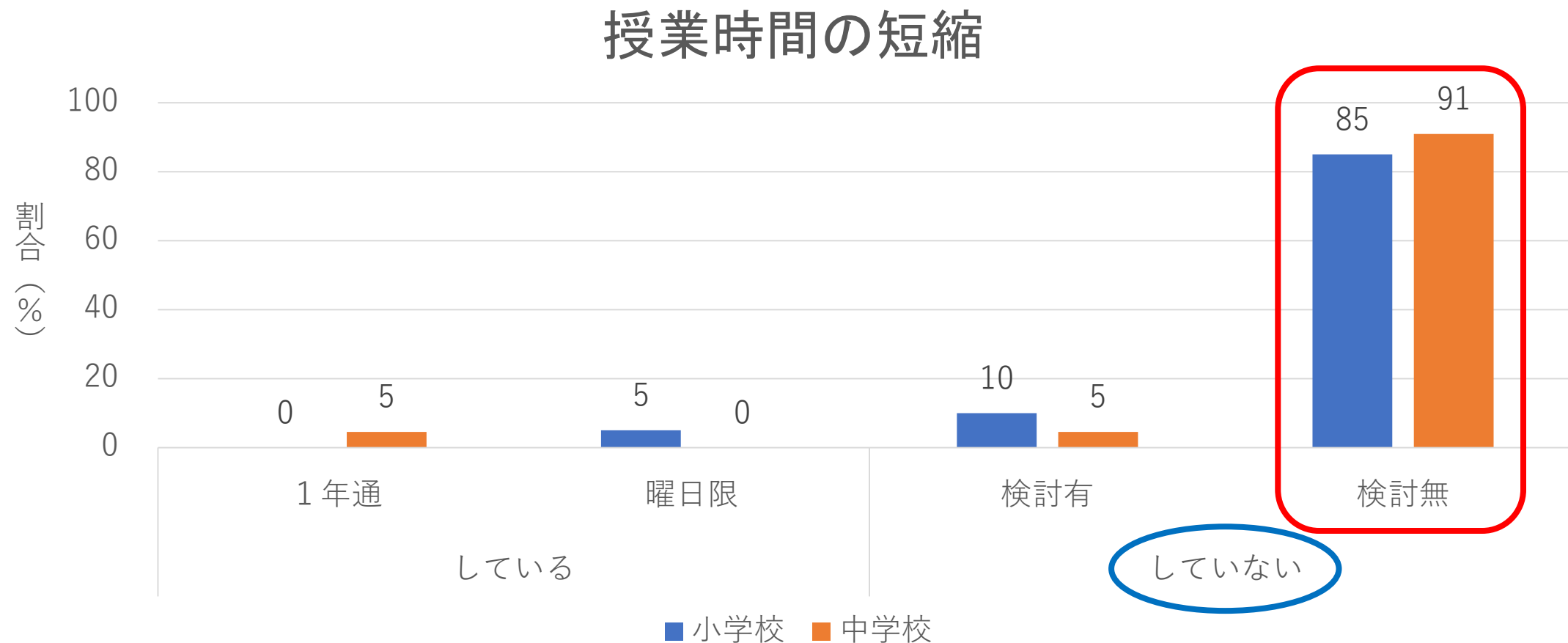
教科担任制（小学校）



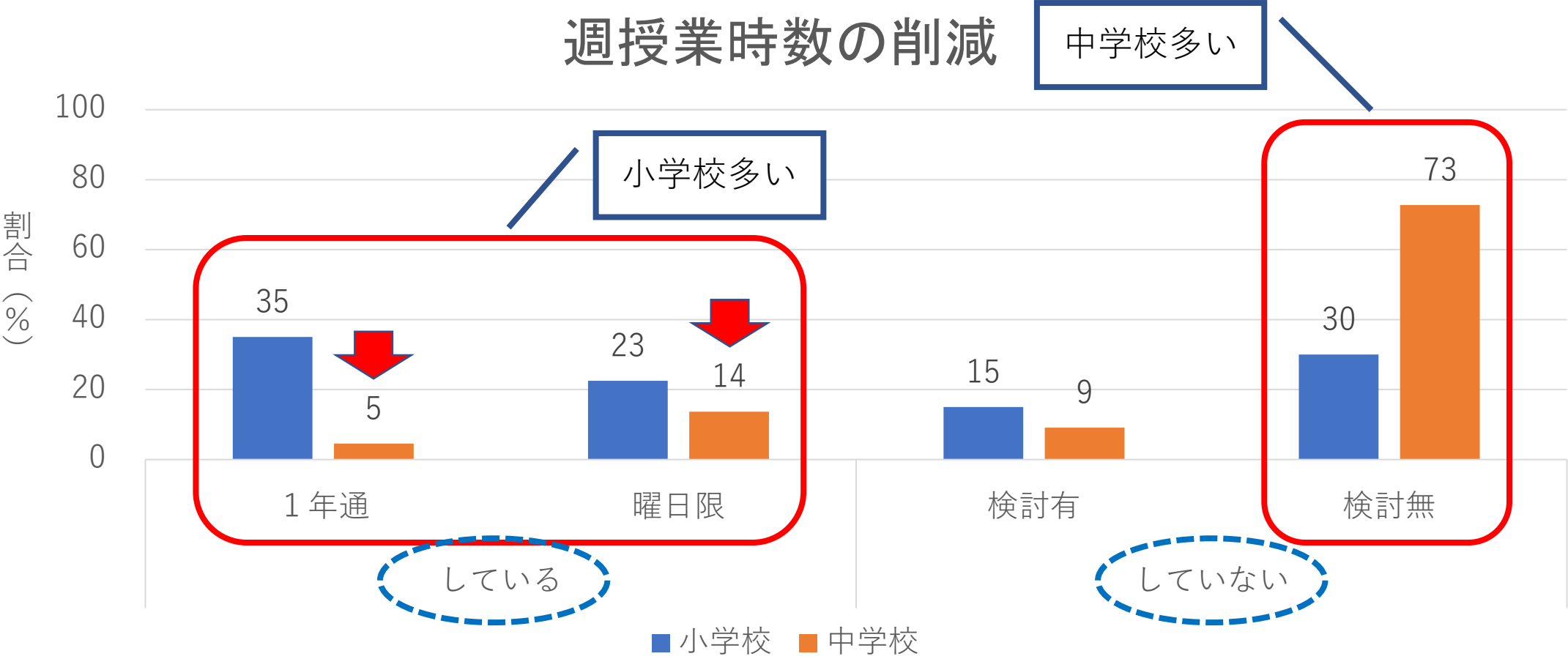
学校体制の工夫(3) 「単年度型学級編成」



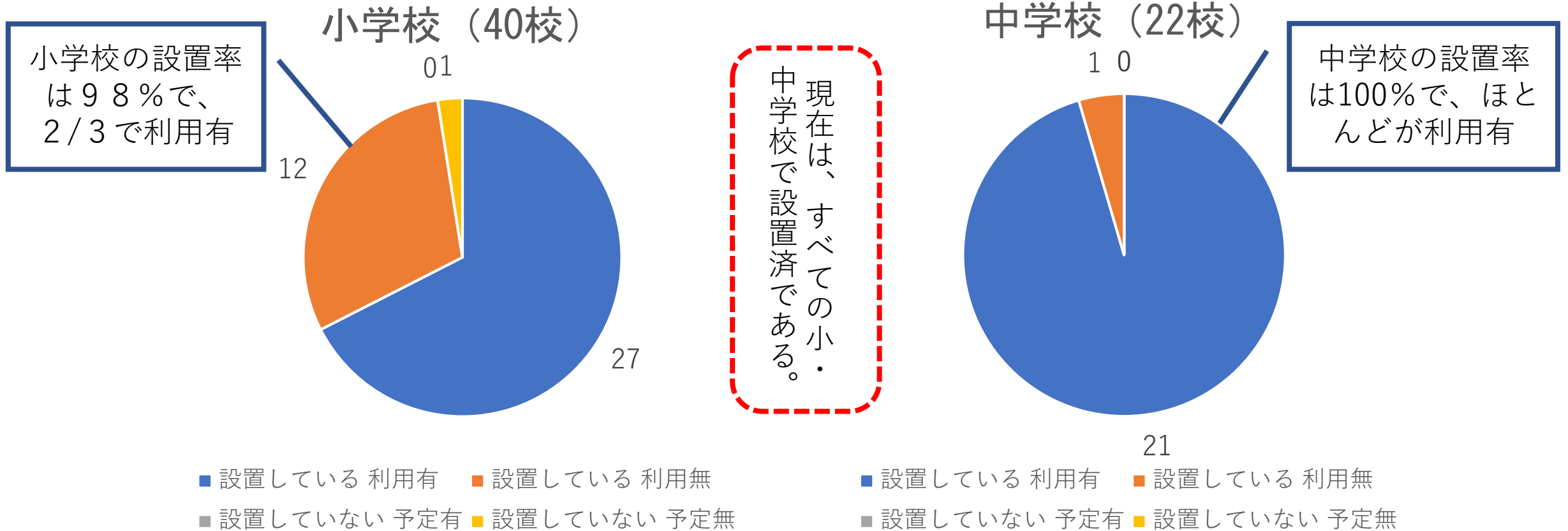
学校体制の工夫(4)「授業時間の短縮」



学校体制の工夫(5) 「週授業時数の削減」



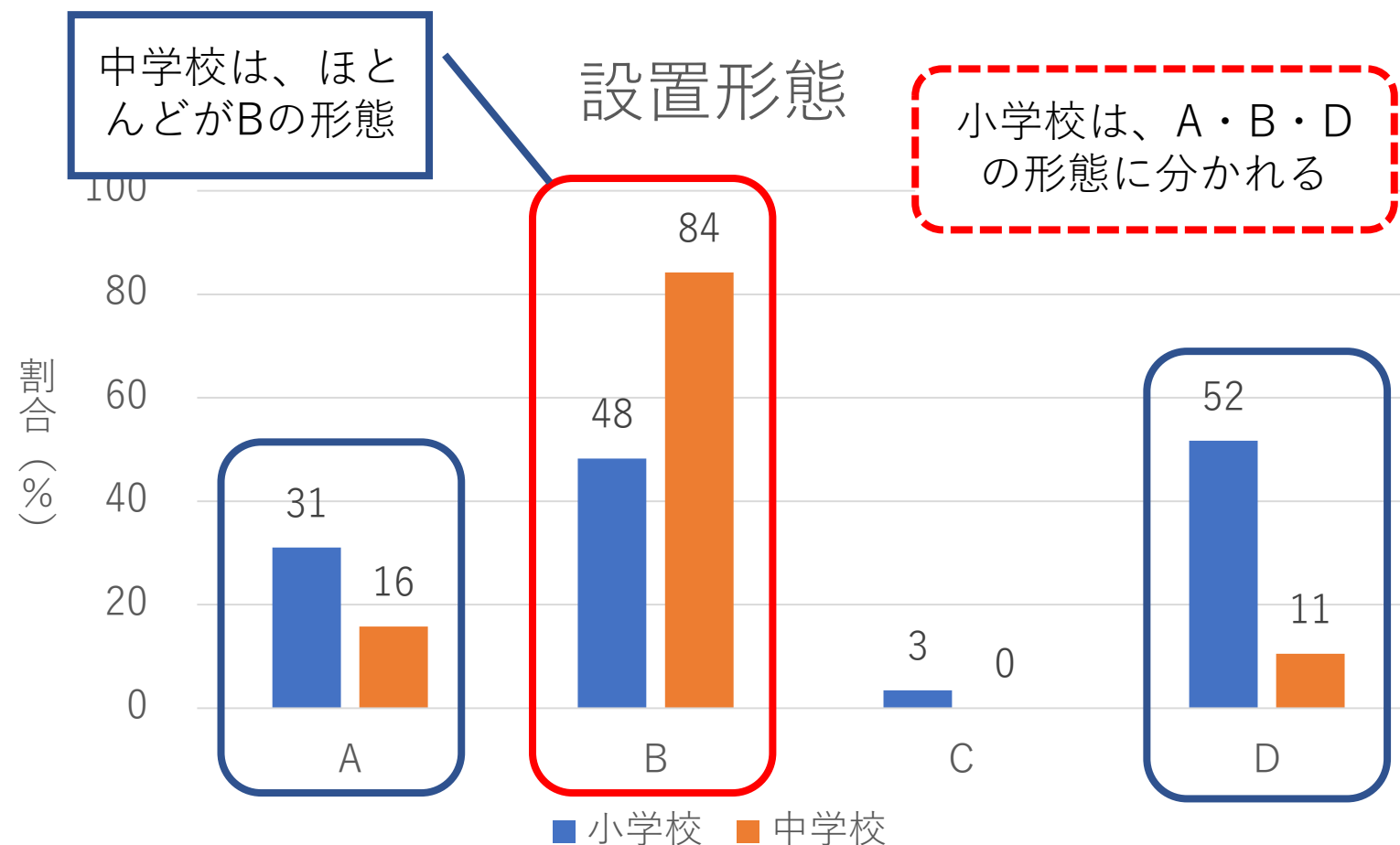
校内教育支援センターの設置（6月末現在）



校内教育支援センターの利用者（6月末現在）



校内教育支援センターの設置形態



設置の形態(種類)

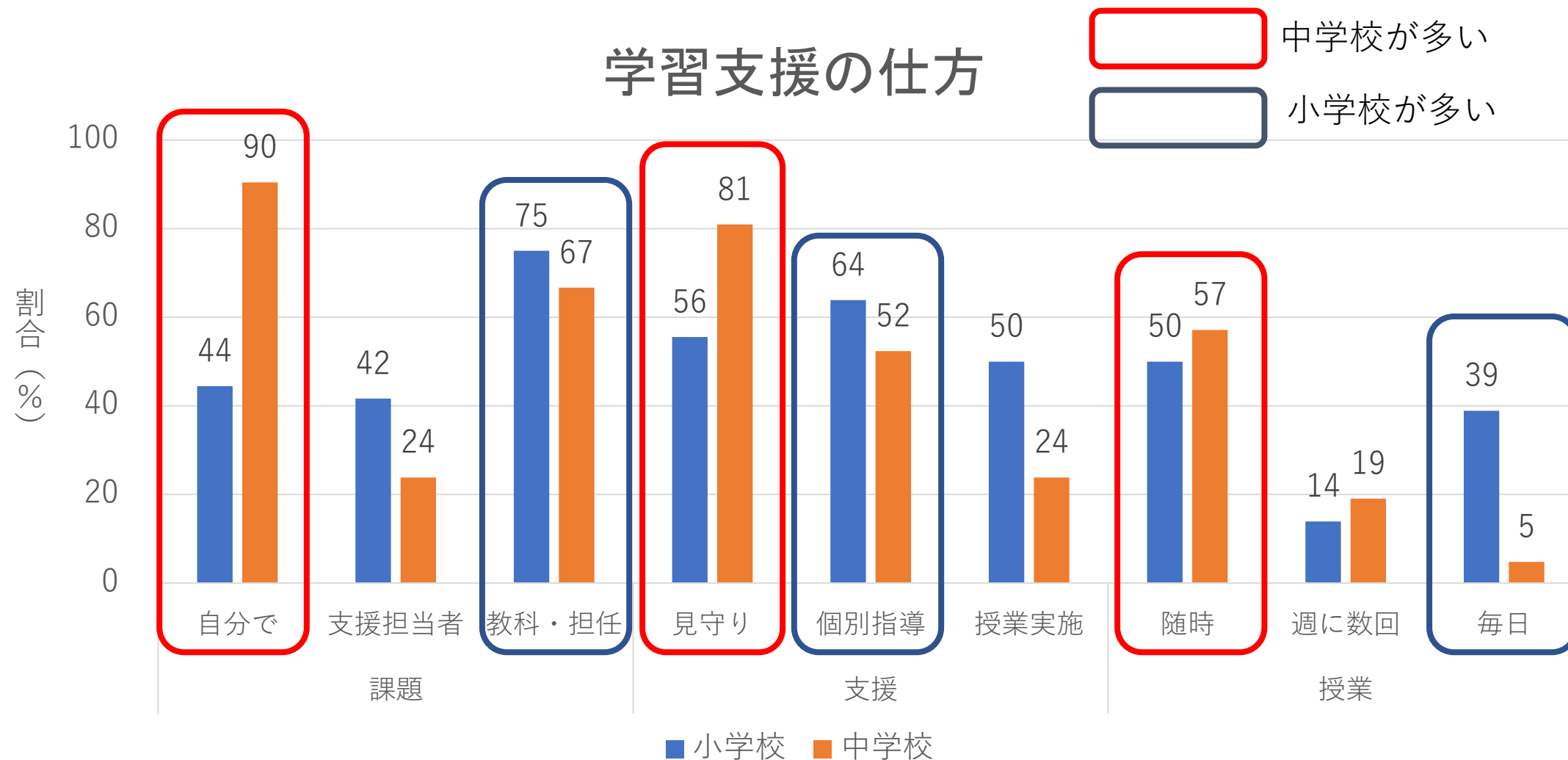
A：1つの部屋で、主に一人の担当者を中心に支援している。

B：1つの部屋で、複数の担当者が分担して支援している。

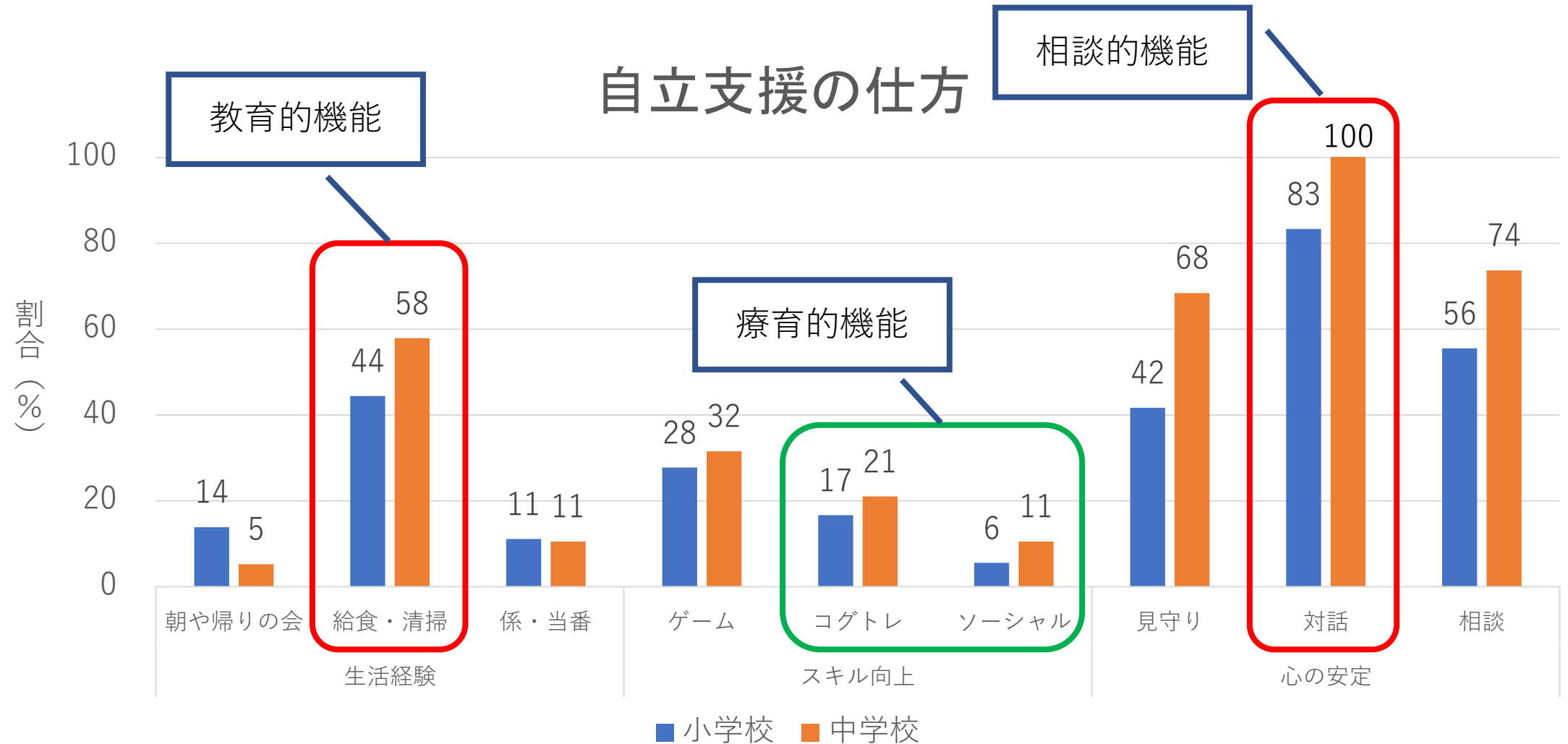
C：複数の部屋で、主に一人の担当者を中心に支援している。

D：複数の部屋で、複数の担当者が分担して支援している。

校内教育支援センターの学習保障

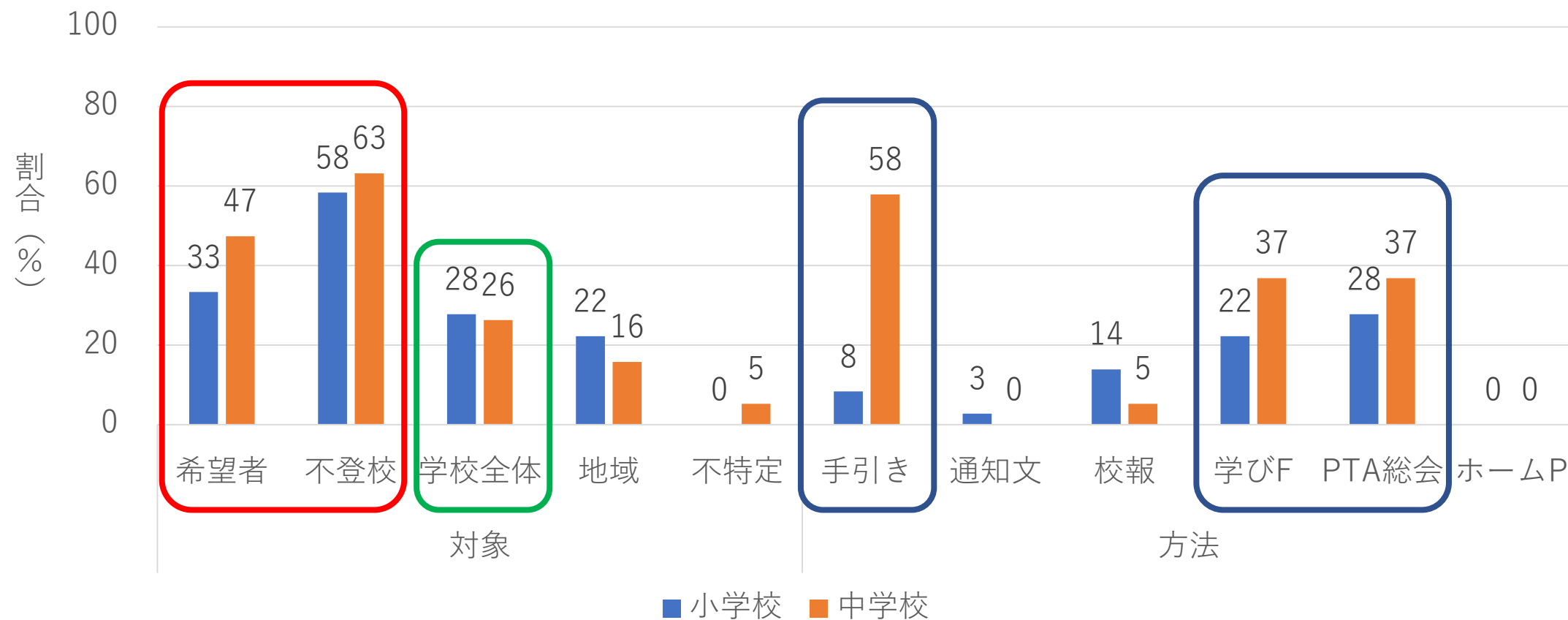


校内教育支援センターの自立活動



校内教育支援センターの周知

周知の仕方



150日以上欠席の児童生徒への効果的な支援

小学校の対応	point	中学校の対応
・ 継続的な電話連絡	所在確認と 関係維持	・ 継続的な電話連絡
・ 定期的な家庭訪問		・ 定期的な家庭訪問
・ 声掛け、会話、誘い	適度（適切）な 登校刺激	・ 声掛け、会話、誘い
・ 行事への参加（見学等）		・ 進学に関する指導
・ 教育相談及び面談	保護者支援と 関係者連携	・ 教育相談及び面談
・ SCやSSWとの連携		・ ひろばモリーオとの連携
・ 多様な登校の仕方	柔軟な学校対応	・ 校内教育支援センターの利用

中学生アンケート調査の結果

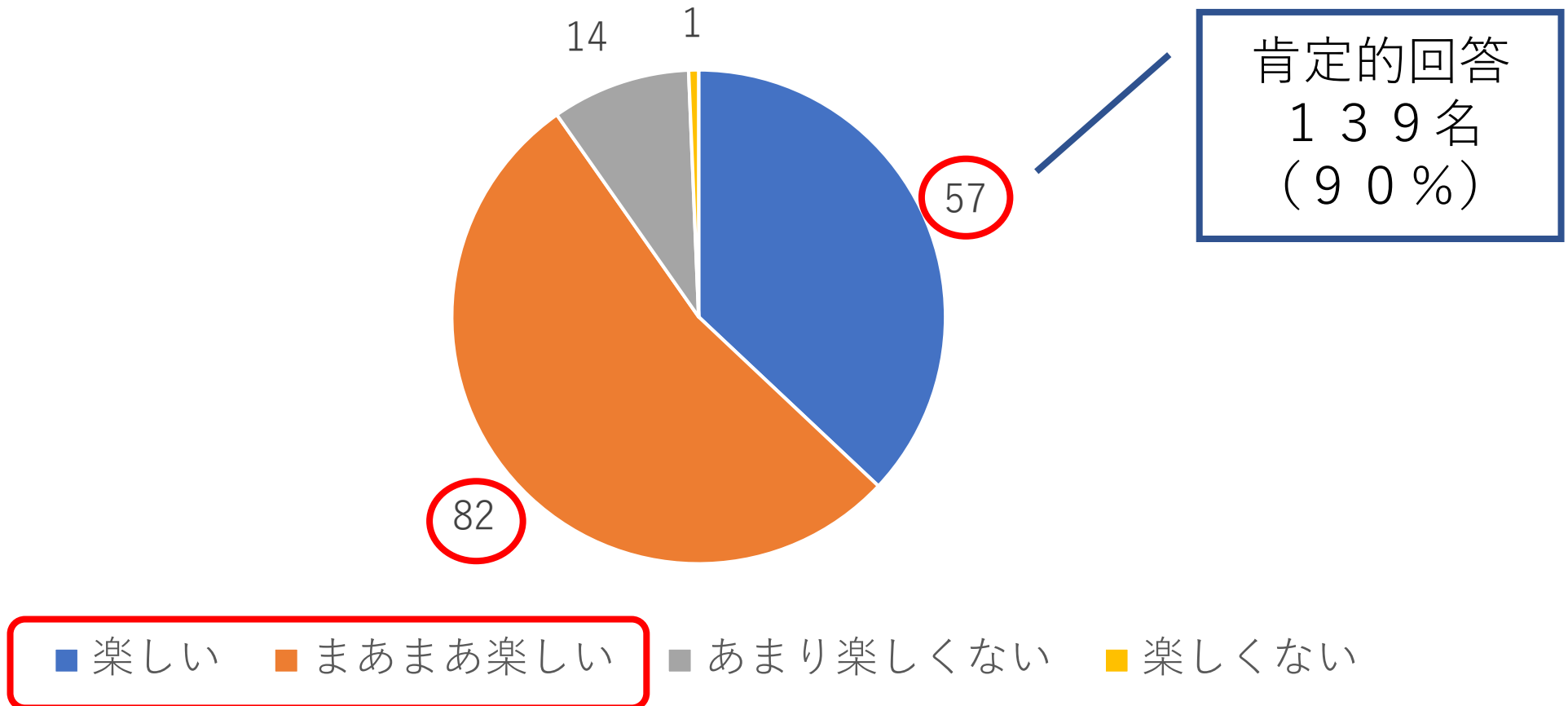
- 内容…「学校生活に関する意識」について
- 対象…市内中学校 1 年生 1 5 4 名（抽出）
- 時期… 1 0 月
- 方法…質問紙

アンケート内容

- 学校生活は楽しいですか。
- 特に学校生活のどんなところが楽しい（楽しくない）ですか。
- 学校生活の中に自分の好きなことや得意なことはありますか。
- 学校生活で、自分がやりたくないこと（苦手なことや不得意なことなど）もがんばっていますか。
- 学校生活で困っていること（心配や悩み事）はありますか。
- あなたには何か困ったときに相談できる人はいますか。
- 相談できる人とは誰ですか。
- あなたは、小学校から今までに、学校に行きたくないと思ったことはありますか。（病気やけがの場合は除きます）
- 行きたくないと思った理由は何ですか。
- それでも休まずに学校に来られたのは、どんな考えや支えがあったからだと思いますか。

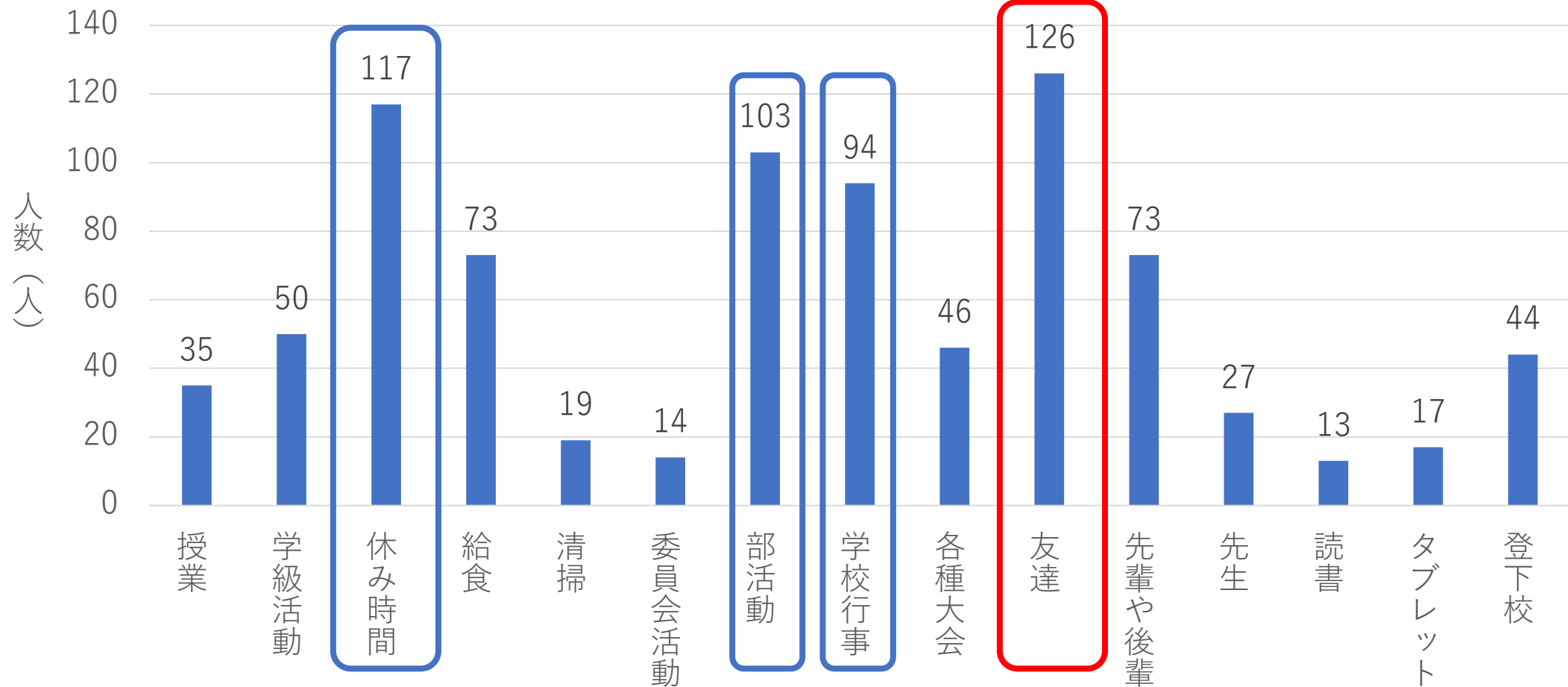
学校生活は楽しいか

学校生活の楽しさ (154名)



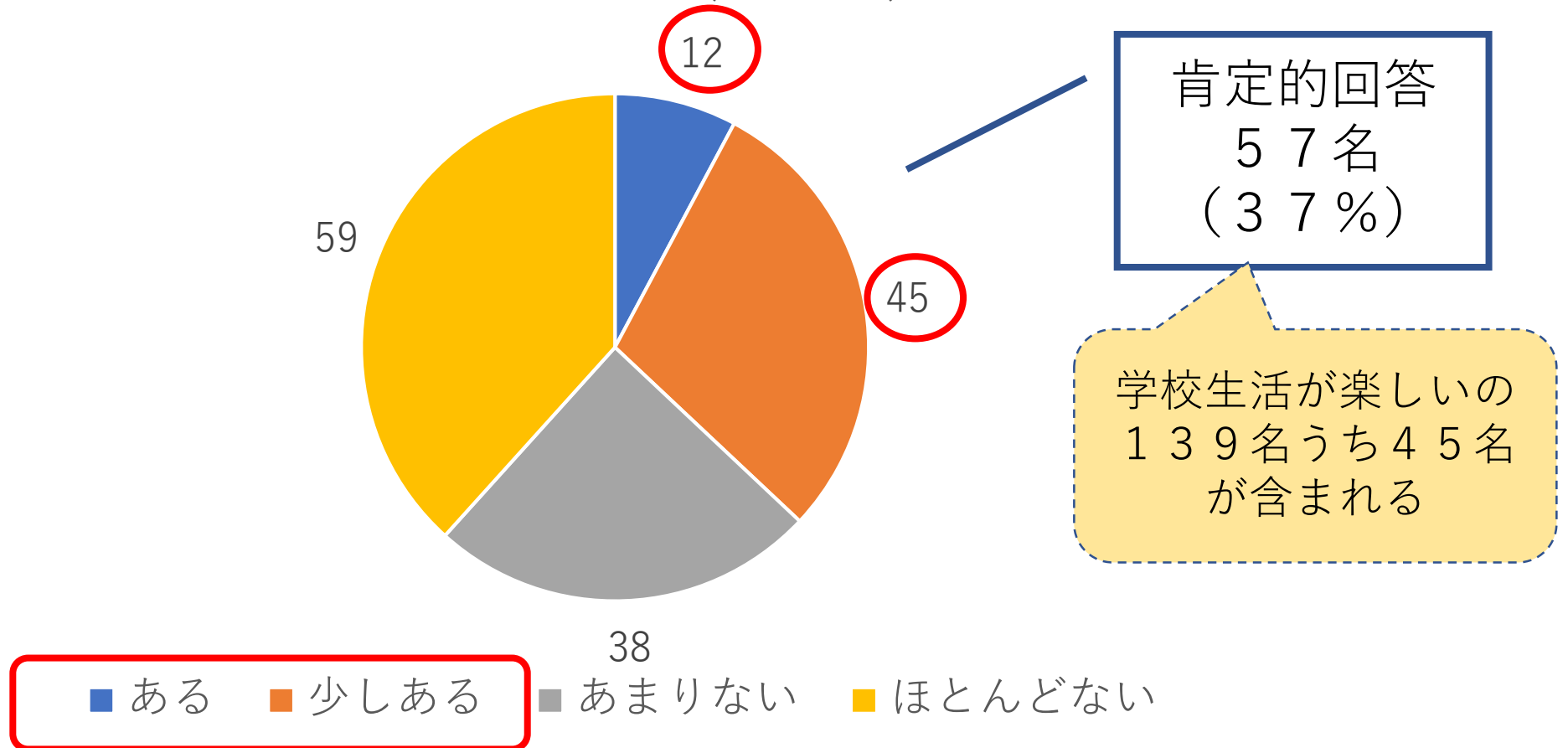
学校生活の楽しいところはどこか

学校生活の楽しいところ(139／154名)



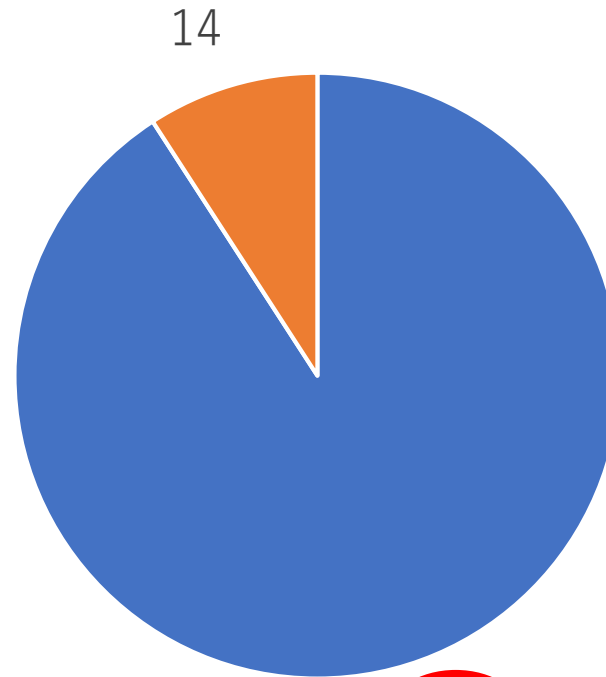
学校生活で困っていることはあるか

心配や悩み事 (154名)



困ったときに相談できる人はいるか

相談できる人（154名）



■ いる

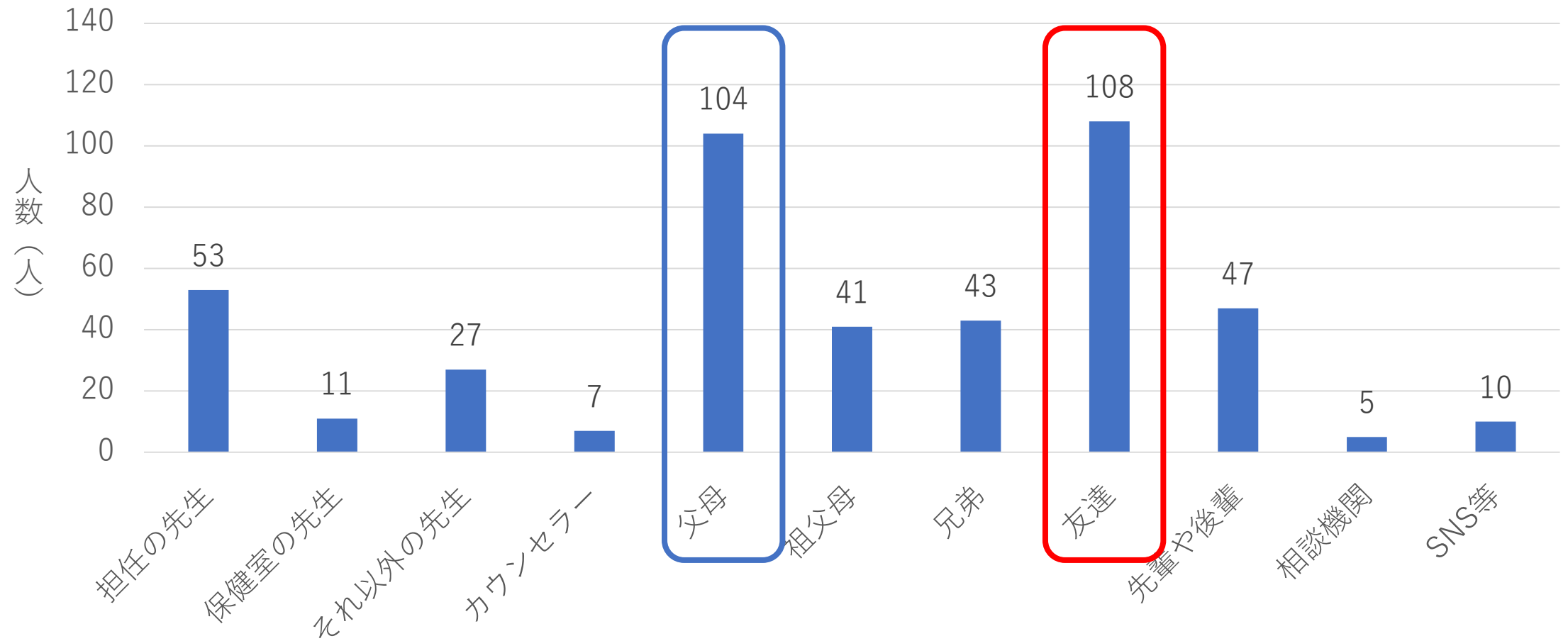
■ いない

肯定的回答
139名
(90%)

学校生活が楽しい
と同じ139名

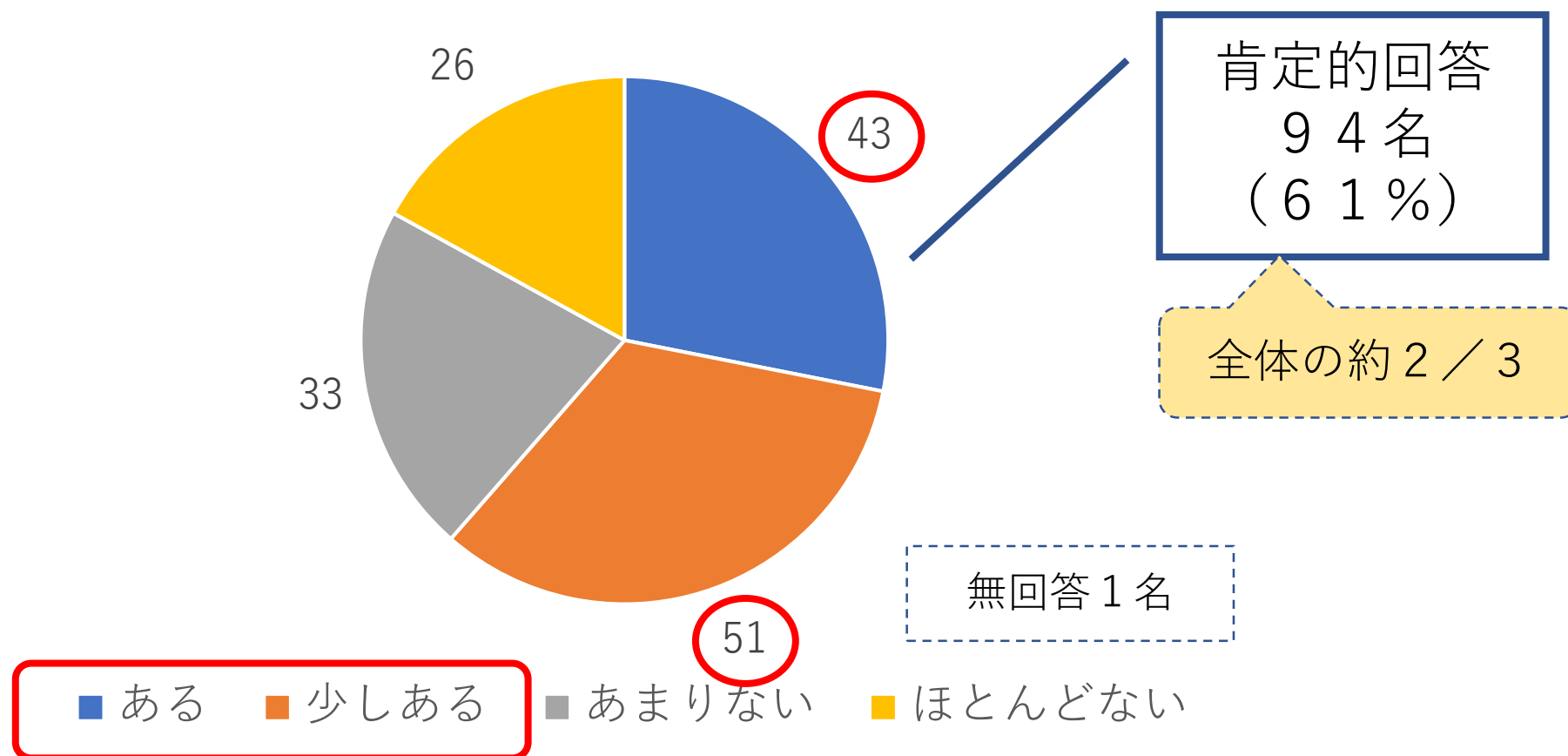
相談できる人とは誰か

相談できる相手 (139 / 154名)



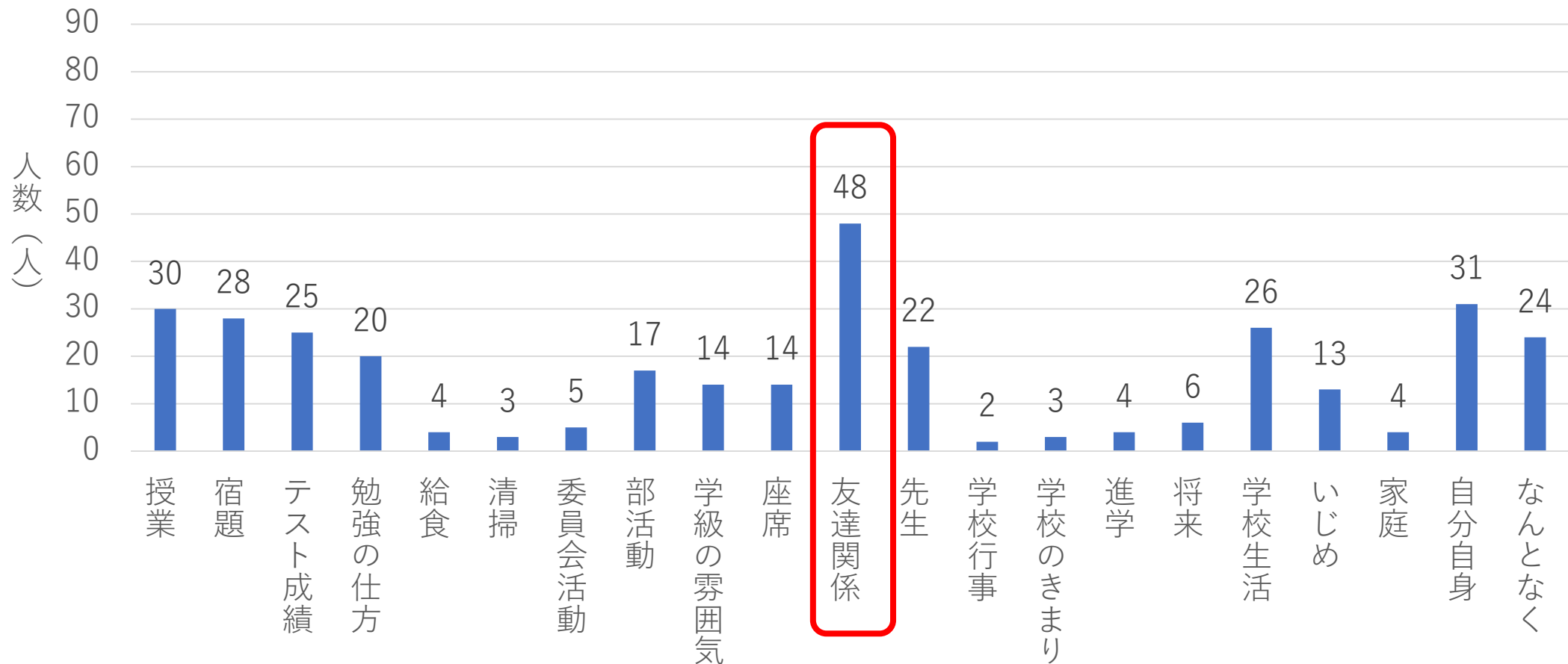
学校に行きたくないと思ったことはあるか

学校に行きたくないと思ったこと (153名)



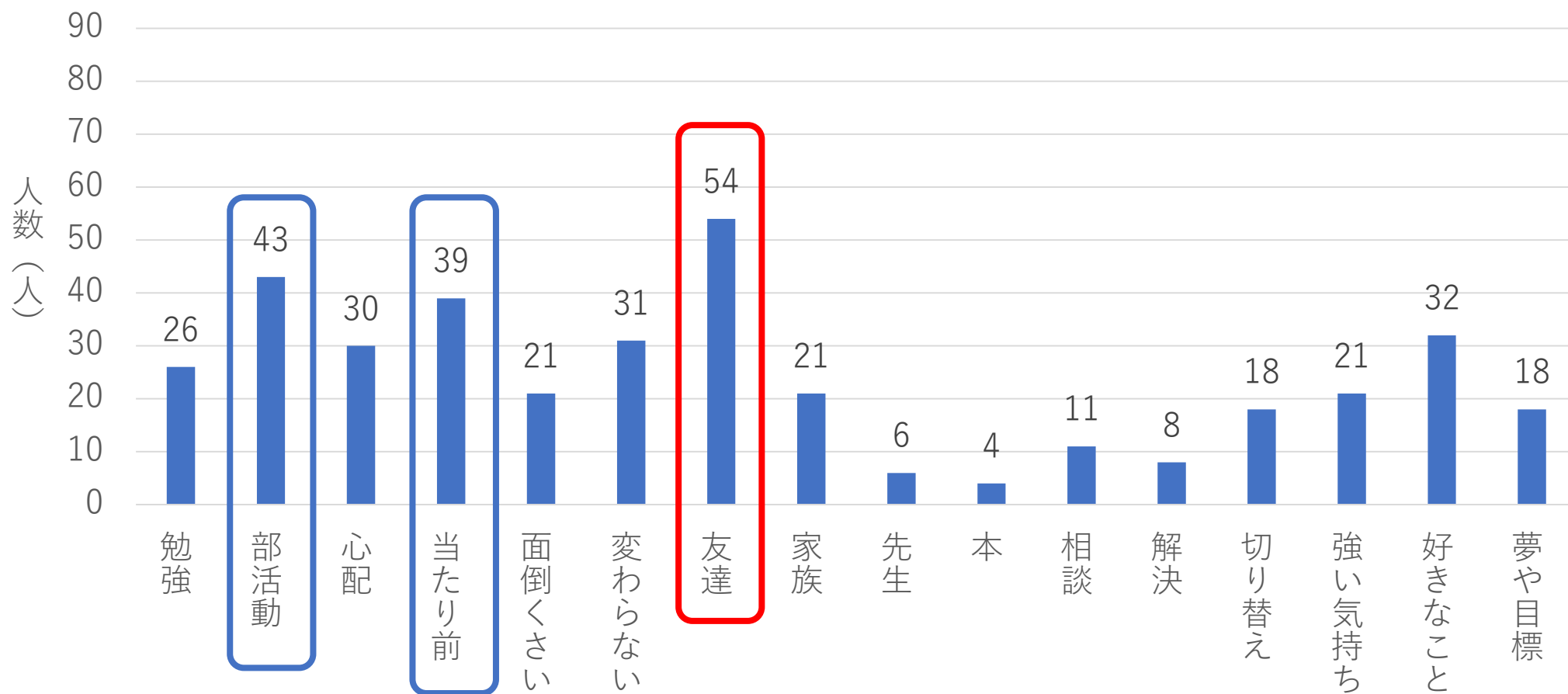
学校に行きたくないと思った理由は何か

学校に行きたくない理由 (94／154名)

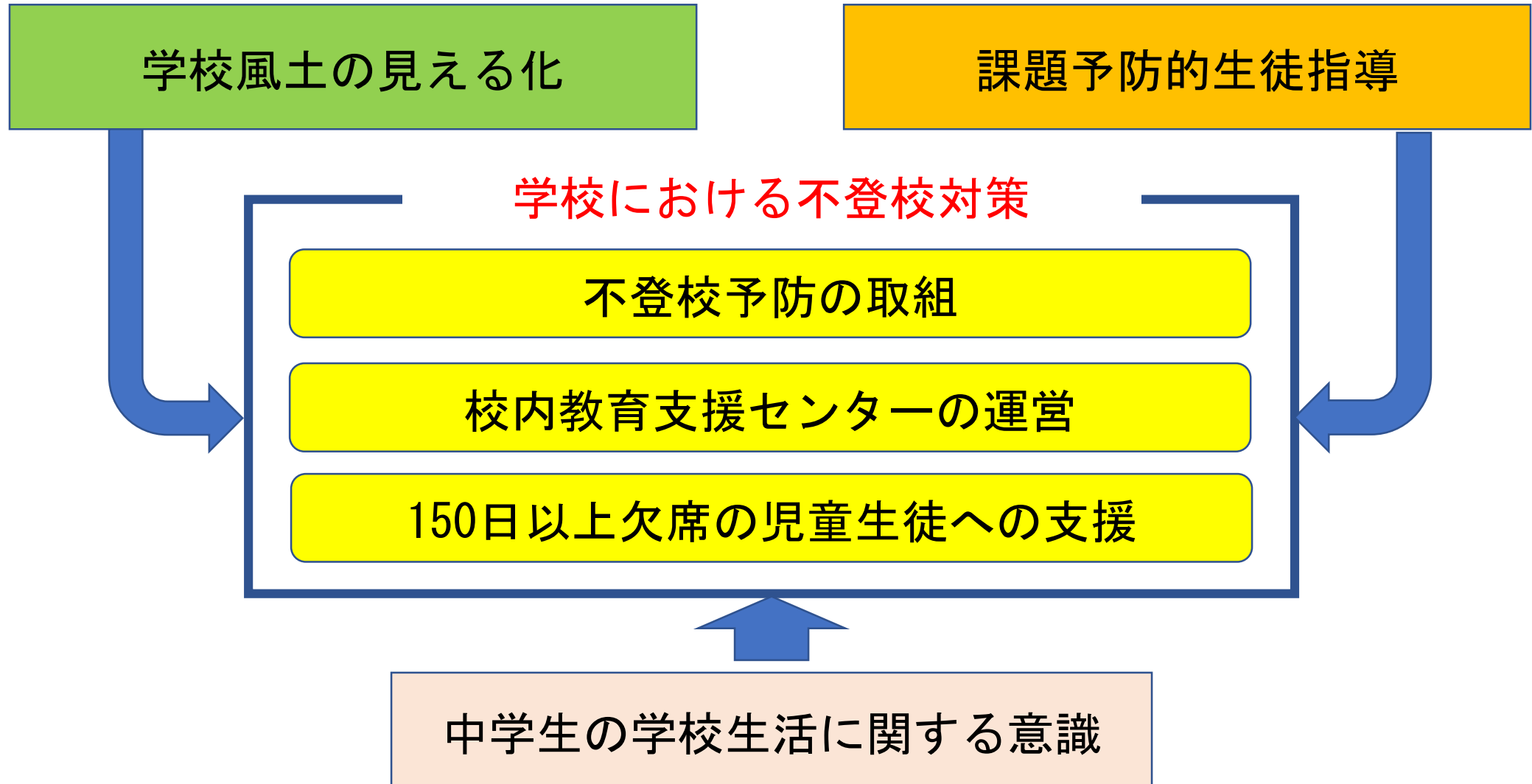


学校に来ることができたのはどうしてか

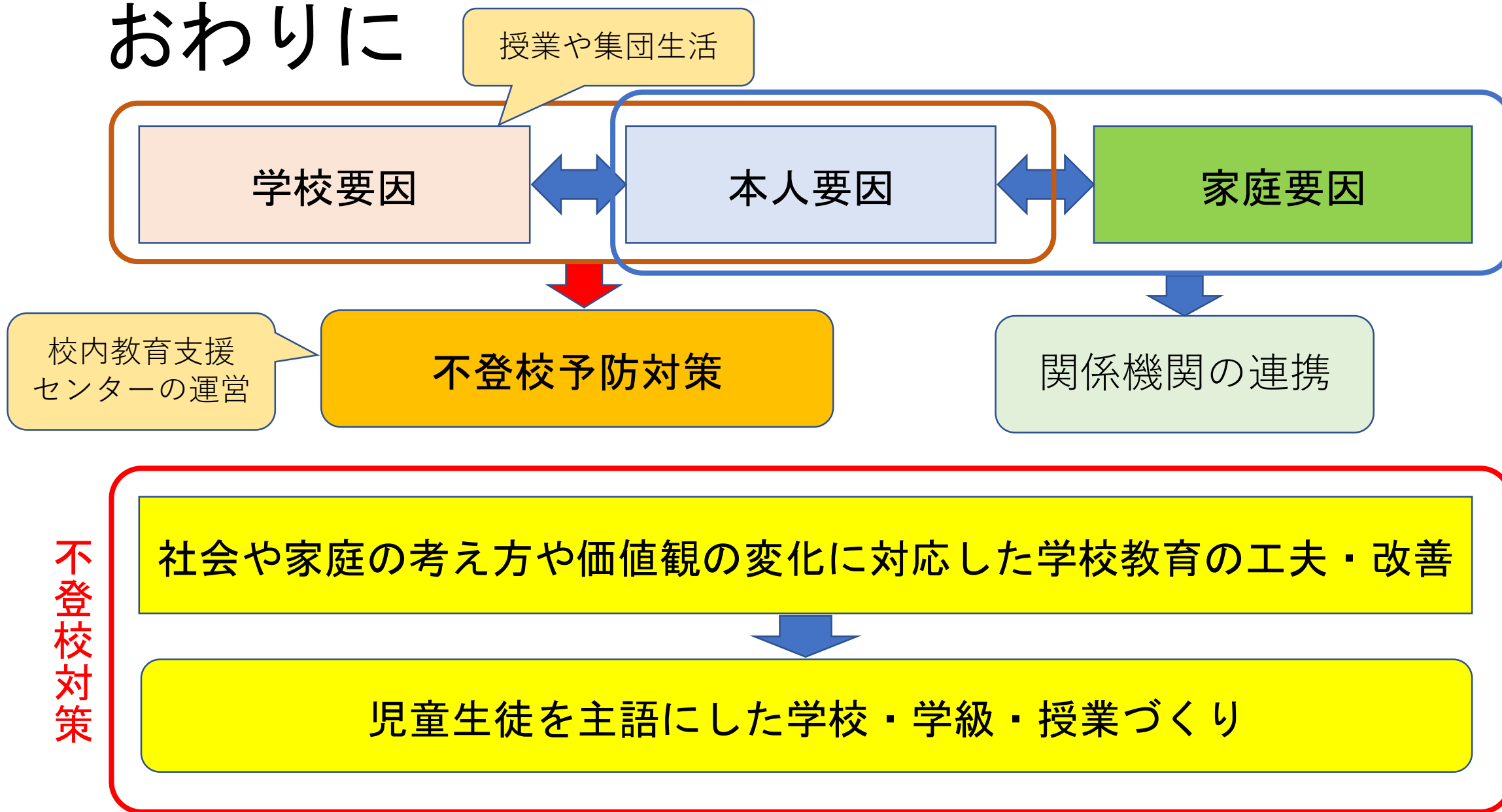
学校に来ることができた理由 (94／154名)



まとめ



おわりに



ご清聴ありがとうございました。

アンケートや訪問等のご協力に感謝いたします。
今回の研究が不登校対策の一助になれば幸いです。